

事業報告書

令和4年度

社会福祉法人 緑風会

特別養護老人ホーム 緑風館

緑風デイサービスセンター

小規模多機能「みどりの家」

居宅介護支援事業所 緑風館

緑風在宅介護支援センター

《 目 次 》

I	法 人 の 概 要	1~3P
II	介 護 老 人 福 祉 施 設	4~28
III	短 期 入 所 生 活 介 護 事 業	29~30
IV	通 所 介 護 事 業	31~36
V	小 規 模 多 機 能 型 居 宅 介 護 事 業	37~41
VI	居 宅 介 護 支 援 事 業	42~43
VII	在 宅 介 護 支 援 セ ン タ ー	44~45

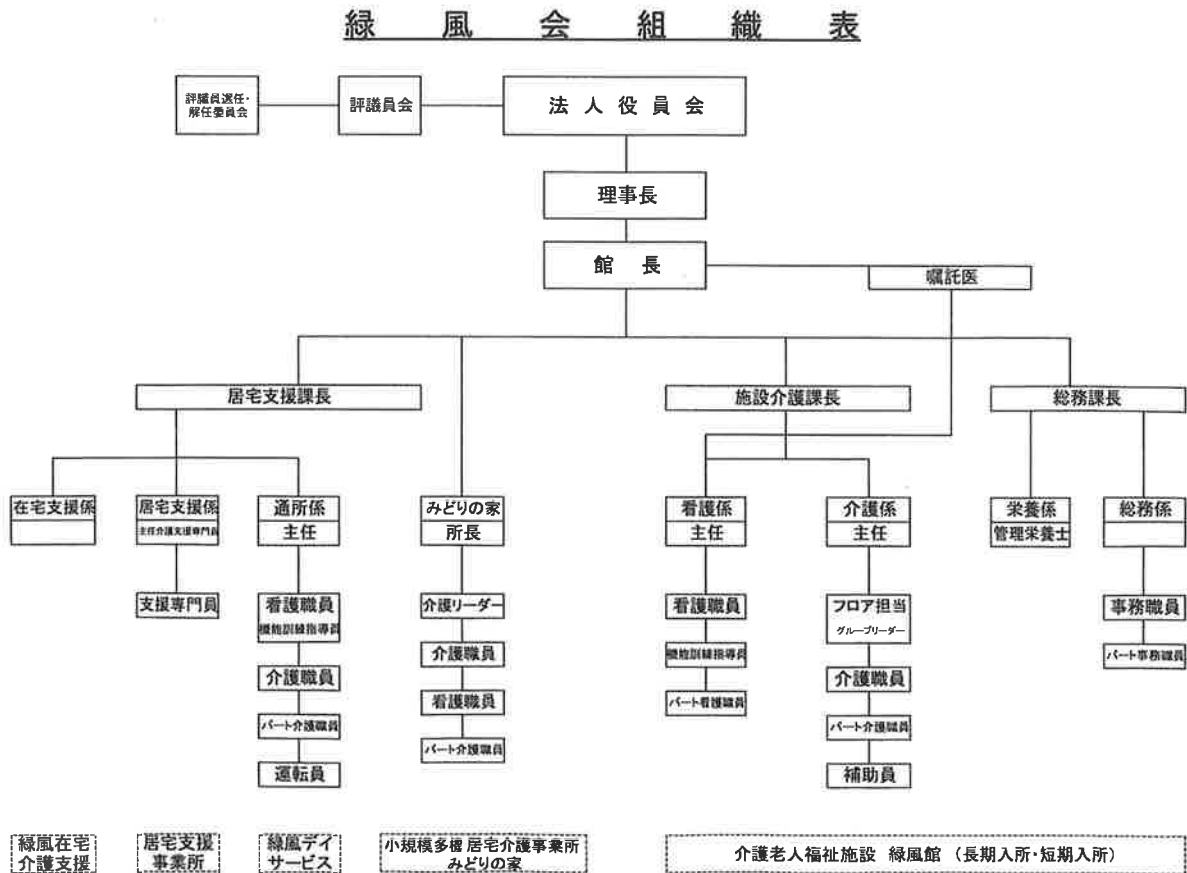
I 法人の概要

1 名称及び所在地

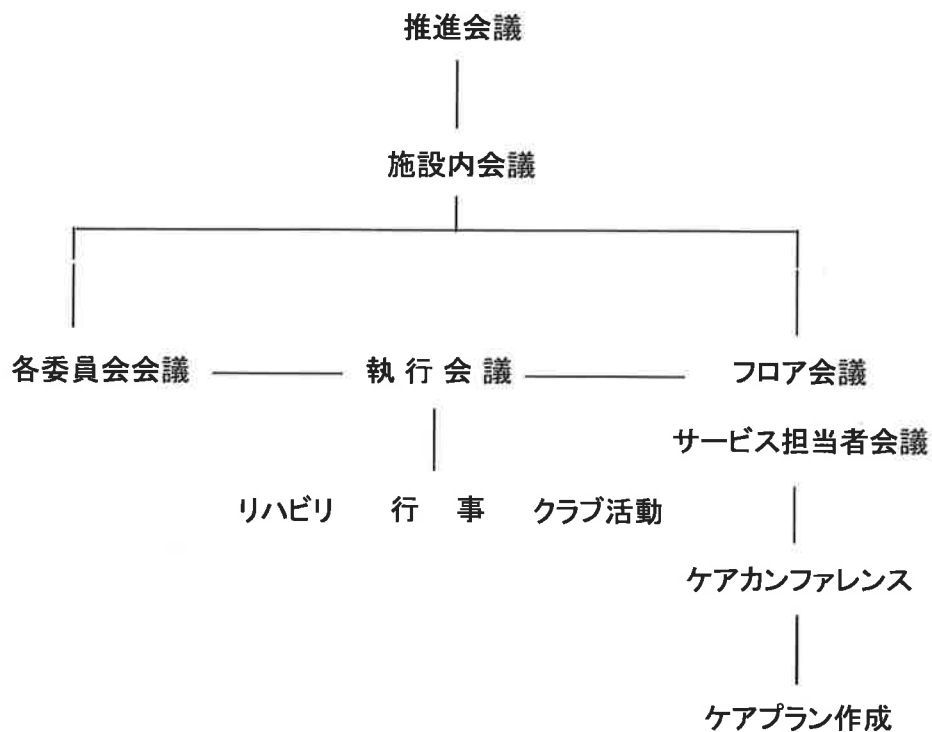
- [1] 名 称 社会福祉法人 緑風会
- [2] 所 在 地 兵庫県南あわじ市広田中筋1025-19
- [3] 法 人 認 可 平成6年2月7日

2 法人の組織

令和5年3月31日現在



3 業務の運営体制



4 職員の勤務体制

事務職員	日勤	A M 9:00 ~ P M 6:00
ケアワーカー	早出	A M 7:00 ~ P M 4:00
	日勤	A M 9:00 ~ P M 6:00
	夜勤	P M 4:30 ~ A M 9:30
看護職員	日勤	A M 9:00 ~ P M 6:00

5 職員配置

〔1〕事業別職員移動及び配置

区 分	介護老人福祉施設 特別養護老人ホーム 緑風館		通所介護 緑風デイサービス		居宅介護支援 緑風館		小規模 みどりの家		緑風在宅介護 支援センター		合 計		
	常 勤	非常勤	常 勤	非常勤	常 勤	非常勤	常 勤	非常勤	常 勤	非常勤	常 勤	非常勤	合計人 数
4年度 入職者数	1	13		1				1			1	15	16
4年度 退職者数	3	10	1	1			2	1			6	12	18
施設長	1										1	0	1
管理者							1				1	0	1
嘱託 医師		1 (0.1)									0	1 (0.1)	1
事務 職員	2	1 (0.5)									2	1 (0.5)	3
相談員	1		1						1		3	0	3
介護支援 専門員 <small>ケアワーカー業務</small>	0.5				2	1 (0.8)					2.5	1 (0.8)	3.5
ケア ワーカー (うち介護 福祉士常 勤換算)	15.5	17 (11.1)	1	7 (6.1)			3	11 (6.2)			19.5	35 (23.4)	54.5
	【12】	【2.0】	【1】	【1.8】			【2】	【3.3】			【15】	【7.1】	【22.1】
看護 職員	2	4 (2.5)	1	1 (0.7)			1				4	5 (3.2)	9
機能訓練 指導員	1										1	0	1
栄養士	1										1	0	1
その他		5 (2.2)									0	5 (2.2)	5
合計	24	28 (16.4)	3	8 (6.8)	2	1 (0.8)	5	11 (6.2)	1	0	35	48 (30.2)	83

令和5年3月31日配置状況 () は常勤換算数

Ⅱ 介護老人福祉施設

1 施設の概要

[1] 名称	特別養護老人ホーム 緑風館
[2] 所在地	兵庫県南あわじ市広田中筋1025-19
[3] 開設	平成6年6月20日
[4] 設置運営	社会福祉法人 緑風会
[5] 定員	60名
[6] 土地・建物	土地面積 2,742.36㎡ 建物構造 鉄筋コンクリート造り 3階建(一部4階) 建物延面積 3,020.41㎡

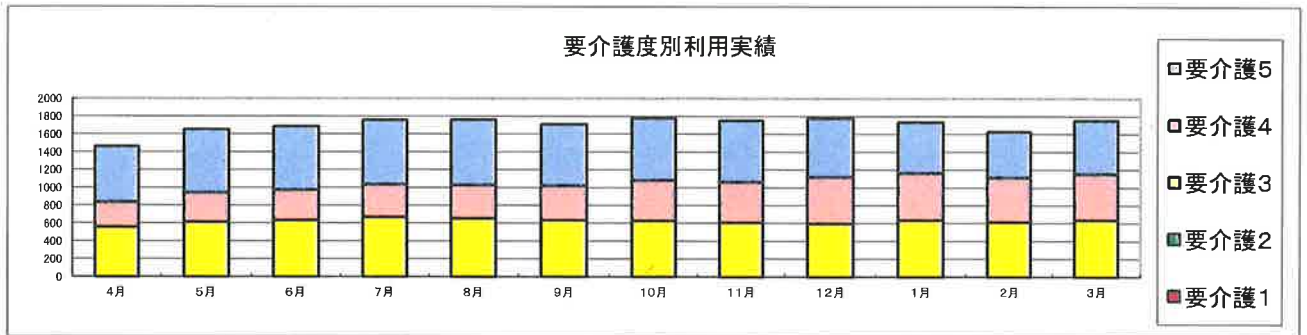
2 入所者の状況

[1] 月別入退所者数

区分	平成6 ~ 令和3年	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	令和 4年 度計	累計	男	女
入所者数	479	5	3	2	2	2	0	1	2	2	0	3	2	24	503	139	364
退所者数	428	1	2	0	1	2	1	0	3	1	0	0	3	14	442	125	317
月末 在籍 者数		55	56	58	59	59	58	59	58	59	59	62	61				

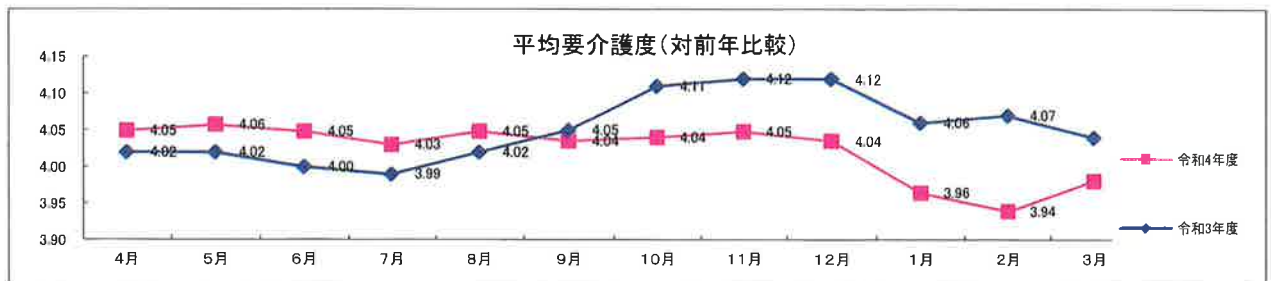
[2]要介護度別利用実績

区分		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	
令和4年度	要介護1	人	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		延	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	要介護2	人	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		延	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	要介護3	人	22	22	21	22	22	22	21	21	21	21	22	21	258
		延	555	612	630	667	651	630	625	605	594	632	611	632	7444
	要介護4	人	10	11	12	13	13	13	15	16	17	18	19	19	176
		延	280	333	342	368	375	390	458	459	527	532	504	522	5090
	要介護5	人	24	25	25	25	26	24	23	24	22	20	21	24	283
		延	627	707	711	720	736	690	696	689	657	570	512	598	7913
	合計	人	56	58	58	60	61	59	59	61	60	59	62	64	717
		延	1462	1652	1683	1755	1762	1710	1779	1753	1778	1734	1627	1752	20447
	平均介護度		4.05	4.06	4.05	4.03	4.05	4.04	4.04	4.05	4.04	3.96	3.94	3.98	4.02



平均要介護度

区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
令和3年度	4.02	4.02	4.00	3.99	4.02	4.05	4.11	4.12	4.12	4.06	4.07	4.04	4.05
令和4年度	4.05	4.06	4.05	4.03	4.05	4.04	4.04	4.05	4.04	3.96	3.94	3.98	4.02



〔3〕入所期間別状況

(令和5年3月31日現在)

区分	6ヶ月未満	6ヶ月以上 ～1年未満	1年以上～ 3年未満	3年以上～ 5年未満	5年以上～ 10年未満	10年以上	合計
男	5	2	3	2	2	0	14
女	5	9	16	11	6	0	47
合計	10	11	19	13	8	0	61

平均入所期間	2年5ヶ月
--------	-------

〔4〕年齢別分布状況

(令和5年3月31日現在)

区分	60～74	75～79	80～84	85～89	90～94	95～99	100～	合計
男	3	2	1	4	3	1	0	14
女	1	4	4	13	16	8	1	47
合計	4	6	5	17	19	9	1	61

平均年齢	男性 83 歳	女性 89 歳	平均 88 歳
------	---------	---------	---------

最少年齢	63 歳	最高年齢	101 歳
------	------	------	-------

〔5〕身元引受人状況

(令和5年3月31日現在)

続柄	配偶者	子	孫	甥・姪	兄弟姉妹	成年後見人	合計
人数	11	45	1	1	1	2	61

〔6〕退所事由別数調

区分	死亡		長期 入院	その他	合計
	施設	病院			
退所者数	7(6)	1	6	0	14

〔7〕入所前居住場所調

区分	在宅	療養 病院	老健 施設	介護 医療院	その他	合計
入所者数	14	5	2	3	0	24

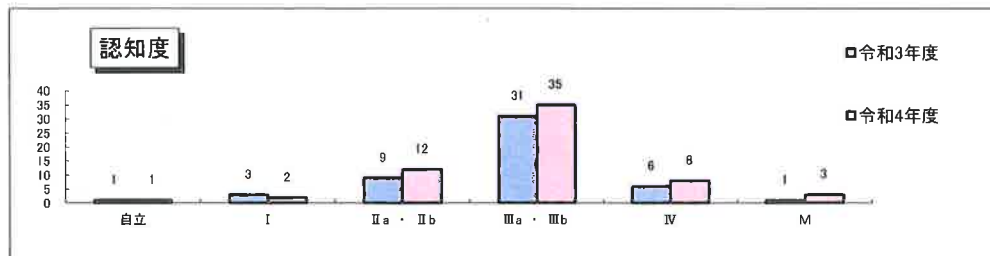
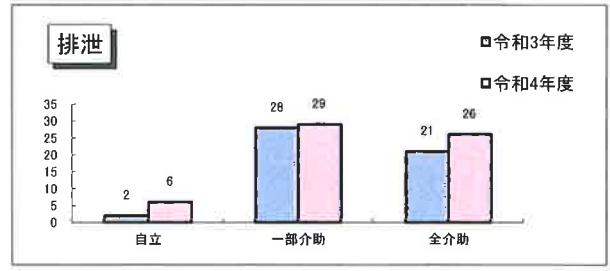
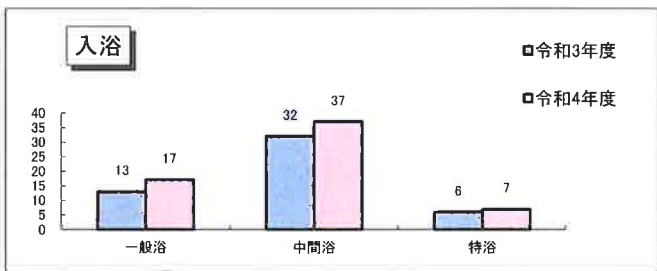
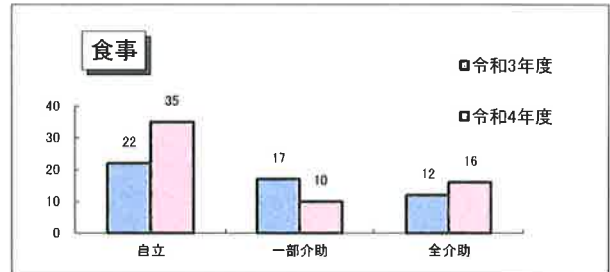
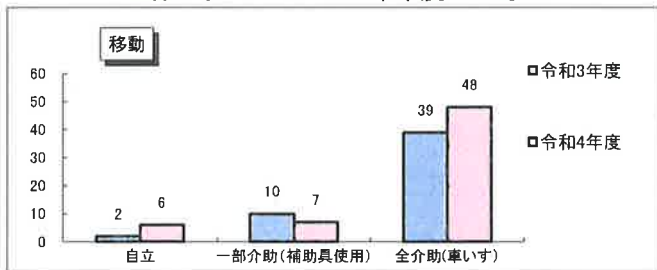
※()内は看取り介護の数

[8]入所者の日常生活・認知度状況

(令和5年3月31日現在)

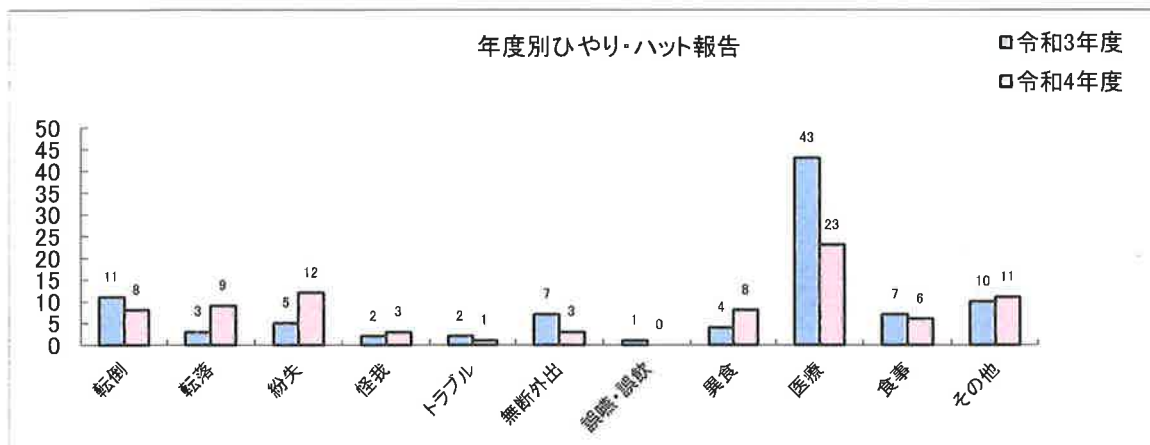
区分		令和3年度	1階	2階	3階	合計	割合
移動	自立	2	0	6	0	6	10%
	一部介助(補助具使用)	10	3	1	3	7	11%
	全介助(車いす)	39	14	18	16	48	79%
食事	自立	22	10	16	9	35	58%
	一部介助	17	4	3	3	10	16%
	全介助	12	3	6	7	16	26%
入浴	一般浴	13	4	9	4	17	28%
	中間浴	32	13	11	13	37	61%
	特浴	6	0	5	2	7	11%
排泄	自立	2	0	4	2	6	10%
	一部介助	28	10	12	7	29	47%
	全介助	21	7	9	10	26	43%
認知度	自立	1	0	1	0	1	2%
	I	3	0	2	0	2	3%
	Ⅱa・Ⅱb	9	3	5	4	12	20%
	Ⅲa・Ⅲb	31	10	13	12	35	57%
	Ⅳ	6	3	3	2	8	13%
	M	1	1	1	1	3	5%

※棒グラフについては昨年度との対比



[9]ひやり・ハット報告書作成状況

区分	令和3年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
転倒	11	1	3	2	1	0	0	0	0	0	0	0	1	8
転落	3	1	0	3	1	1	0	0	1	1	0	0	1	9
紛失	5	1	0	4	0	0	0	0	1	3	2	1	0	12
怪我	2	1	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	3
トラブル	2	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1
無断外出	7	0	1	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	3
誤嚥・誤飲	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
異食	4	0	5	2	0	0	0	0	0	0	0	0	1	8
医療	43	1	5	5	0	0	3	1	1	0	4	1	2	23
食事	7	2	0	0	0	0	1	1	1	1	0	0	0	6
その他	10	2	3	0	1	0	1	1	1	0	0	2	0	11
合計	95	9	17	16	3	3	6	3	7	5	6	4	5	84



[10] 事故報告(市への報告事故)状況

区分	事故発生日	原因	事故内容	性別	受診先	入院の有無
1	令和4年5月5日	転倒	右大腿骨骨挫傷	女	淡路医療センター	有
2	令和4年5月29日	転倒	右大腿骨転子部骨折	女	淡路医療センター	有
3	令和4年8月19日	窒息	窒息死	女	穀内クリニック往診	無
4	令和5年3月22日	転落	頭蓋内出血	女	八木病院	無

[11] 苦情・要望状況

苦情	18件
要望	4件
意見	2件

家族から	16件
利用者から	4件
事業所から	1件
その他	3件

3 総務係

(1) 収支差額の確保

- ①財務状況を職員会議で報告、各事業の収入確保について検討会を行った。
- ②デイサービスの科学的介護推進体制加算について、取得の準備を進めた。

(2) 労働環境改善

- ①Webシステム(ズーム)を活用して、職員会議及び外部研修等に参加した。
- ②長期入所者の利用料を口座振替したことにより、業務負担が軽減した。

(3) 施設設備・修繕

- ①新型コロナウイルス拡大防止対策の個室化改修事業を活用して、205・206・305・306号室の個室化工事・内装改修工事（工事総額3,706.4万円 補助金1,564.8万円）を行った。
- ②兵庫県労働環境支援事業を活用して特養では、ベッド10台(購入額323.6万円補助金220.6万円)を購入した。また、非常物品保管用としての屋外倉庫(購入額85.8万円)、緑風館内防犯カメラ99.8万円、特養3階フロアでは、デスクトップパソコンの更新(購入額19.1万円)、デイサービスでは、マッサージ機(購入額13.4万円)を更新した。

(4) 人材の確保

- ①島内6高等学校を訪問し求人票を提出、情報交換をした。
- ②ハローワーク主催の介護求人面接会に参加した。
- ③高校生を対象とした企業説明会に参加し、法人の概要、事業及び求人内容を説明した。
- ④職員紹介制度による求人活動で12名の職員を採用した。

(5) 施設防災計画

- ①施設の備蓄食品リストと献立を確認した。
- ②非常時に備え、非常食物品の更新をした。

(6) 法人及び経営情報を公表

- ①現況報告書等(現況報告書、計算書類)の情報を公表しました。また、ホームページにおいて、事業計画書、事業報告書、決算関係書類、処遇改善計画書を公表した。

(7) 社会福祉法人として地域貢献活動を実施

- ①地域サポート施設の活動として地域高齢者の見守りとして、高齢者11人に実施した。見守り訪問は、年延べ63件(ゴミ出し年間述べ49件)、外出支援は、年延べ170件(医療機関や買い物の付添い・金融機関市役所等)、電話による安否確認は、年延べ395件実施した。

外部研修会参加一覧表

(うちオンライン研修参加数)

研修内容	特別養護老人ホーム緑風館	緑風デイサービスセンター	小規模みどりの家	居宅介護支援緑風館	緑風在宅介護支援センター	合計
医療連携	2 (2)			1 (1)		3 (1)
防災・感染予防	12 (7)	2 (1)	1	2		17 (8)
食事・給食業務	9 (7)					9 (7)
行政・保険・法改正	2					2
ケアマネ				31 (31)	11 (11)	42 (42)

資格取得・スキルアップ ・人材育成	50 (45)	7 (6)	3 (2)	13 (1)	2 (1)	75 (55)
地域 サポート・ケア	14 (2)	2	2	11 (3)	12 (1)	41 (6)
その他	16 (9)	2 (2)		5 (5)	2 (2)	25 (18)
合計	105 (72)	13 (9)	6 (2)	63 (41)	27 (15)	214 (139)

4 栄養係

(1) 栄養ケア・マネジメント

- ①体重変化や食事摂取量について毎月評価し、必要に応じて多職種で検討し、食事内容を変更し、食事だけでは栄養状態の改善が難しい方には栄養補助食品を追加で提供した。
- ②疾病に応じた食事提供について、糖尿食・心臓食・腎臓食・肝臓食・膵臓食・貧血食を提供した。

療養食

(人)

療養食内訳	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	
糖尿食	実人数	1	1	2	2	1	1	1	1	1	0	0	1	12
	延べ食数	90	93	159	110	93	90	93	90	19	0	0	71	908
心臓食	実人数	9	10	10	10	11	10	10	10	9	9	9	10	117
	延べ食数	810	930	900	930	937	900	930	856	810	837	756	715	10311
腎臓食	実人数	4	3	3	3	3	3	3	3	3	4	4	5	41
	延べ食数	318	279	270	279	279	270	279	270	279	335	336	407	3601
肝臓食	実人数	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	24
	延べ食数	180	186	180	186	186	180	186	180	186	186	168	186	2190
膵臓食	実人数	1	2	2	2	2	2	2	1	1	1	1	0	17
	延べ食数	90	119	180	186	186	180	125	90	93	93	20	0	1362
貧血食	実人数	2	2	2	2	1	1	1	1	2	2	2	2	20
	延べ食数	180	186	180	130	93	90	93	90	167	186	168	186	1749
合計	実人数	19	20	21	21	20	19	19	18	18	18	18	20	231
	延べ食数	1668	1793	1869	1821	1774	1710	1706	1576	1554	1637	1448	1565	20121

- ③排便状況を観察し、定期的に評価していくことで、自然排便への取り組みに繋がった。実施途中で自然排便が難しくなった時には、別の商品に変更することで自然排便に繋がった。
- ④口腔機能及び嚥下機能にあわせた食事提供については、内科医師と歯科医師の指示のもと経口維持(I)(II)を計画し、実施した。

経口維持

(人)

区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
経口I	15	18	20	18	19	19	21	20	18	17	17	15	217
経口II	14	17	18	17	18	18	18	17	16	15	16	14	198

(2) 安全安心な食事の提供

- ①新型コロナウイルス等の感染症については、職員の手洗い及び日々の体調維持管理を徹底し、こまめな手洗いとうがいをし、定期的な抗原検査を実施し予防に努めた。

②安全な環境の下での食事提供については、非常食を含めた食品の賞味期限の確認を行い、それぞれ期限内に使用した。

③介護職員と栄養士により「配膳室チェックシート」を用いて、日々の衛生管理を行った。

(3) 食の楽しみ

①季節を感じる食事として、特養では行事食、デイサービスではお楽しみ食を提供した。

7月からは、季節のデザートとして果物やケーキを毎月1回提供した。

【特養】

4月	7月	9月	11月	12月	1月	2月	3月
お花見弁当	七夕	敬老の日	美食ランチ	クリスマス	おせち	節分	ひな祭り

【デイサービス】

11月	2月
握り寿司	寄せ鍋

②喫茶コーナーでは、希望のあったメニューを用意し、選んでいただくことで普段とは違うおやつを提供した。

5 介護計画係

(1) 多職種連携による情報収集、分析

①定期的なサービス担当者会議、ケアカンファレンスの開催

サービス担当者会議については事前に各専門職(介護支援専門員、看護職員、栄養士等)で情報集約を行った上で各フロア会議内等にて検討会議を行った。ケアプラン作成に必要な情報をもとに検討を行うことで、専門性をもった視点で計画立案ができた。フロア会議内でのサービス担当者会議は年間計36回実施する予定であったが、新型コロナウイルス感染症の影響を受け、今年度は26回の開催にとどまったが、利用者一人ひとりの課題を細かく検討し、利用者本人にあったケアプラン作成につながった。

「ケアカンファレンス 本人及び身元引受人の参加実績」

区分	令和3年度	令和4年度	前年対比
開催回数	69回	54回	15回減
本人 参加回数	4回	4回	増減なし
身元引受人 参加回数	65回	50回	15回減
本人及び身元引受人 参加率	100%	100%	増減なし

今年度も新型コロナウイルス感染症の影響を受け、島内外在住の身元引受人に郵送でケアプランの説明をし同意を得たことが多かったため、開催総数は減少した。

「ケアカンファレンス参加者の続柄別内訳」

区分	配偶者	子	子の配偶者	孫	兄弟姉妹	甥・姪	成年後見人	その他	本人	合計
参加延人数	7名	36名	8名	1名	0名	0名	1名	0名	4名	57名
割合	12%	63%	14%	2%	0%	0%	2%	0%	7%	100%

②ケアプランの見直しや身元引受人との相談支援を綿密に行うことで信頼関係を深めることができた。また、身元引受人からの土日祝日の日程希望への配慮、身元引受人への事前連絡調整、生活相談員等との連携を図ることで、柔軟なスケジュール調整ができた。(カンファレンスの日程変更4件)。

(2) 継続的かつ根拠のある課題分析

①「令和4年度 アセスメントツールの活用実績」

アセスメントツールの種類	気づきシート	センター方式 A-3	センター方式 A-3以外	包括自立支援プログラム
延利用者数	107名	111名	4名	32名

利用者個々の状態に合わせた多様な書式の活用により、その人らしさの追求や自立支援を行い、生活の質の向上に繋げることができた。

② 認知症ケア委員会と連携し、4ケース課題抽出をすることで、精神・行動支援のケアプランを提供することができた。また、看取りケア委員会との連動を密に行うことで看取りケアに対するケアプランの質の向上にも繋がり、今年度は6ケースの作成にもつながった。

(3) ケアプラン実施に対する定期的な効果検証

① ケアプラン作成・変更の2週間後のモニタリングは28名について実施し、効果検証を行った。うち、定期更新以外の適時の変更については20名分のケアプラン変更を実施することができた。

② 毎月のモニタリングは担当職員が行い、介護支援専門員が確認している。また、モニタリング実践記録表についても担当職員が毎月記入して、介護支援専門員が確認をしている。

6 生活相談員

(1) 利用率目標値の達成

①「長期、短期入所の目標(月68人)率実績」

長期入所	短期入所	特養全体
96.70%	114.40%	99.30%

(2) 定期的な事業所訪問と情報交換

①「関係機関(病院・各事業所)への訪問件数」

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
12件	11件	10件	6件	11件	0件	11件	10件	8件	8件	9件	9件	105件

「関係機関(病院・各事業所)との情報交換」

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
18件	20件	17件	10件	16件	0件	14件	15件	15件	14件	14件	16件	169件

(3) 加算の取得

① 新たな加算取得の情報集約については、関係機関やインターネット等での情報集約に努めた。「科学的介護推進体制加算」を取得している施設に協力を仰ぎ、情報を聞きとる。

②新たな加算取得に向けて検討を行う。人員配置や専門職の配置を考慮し、今現在取得できるものに関して整理し、取得できるものは取っている。令和4年秋からは「科学的介護推進体制加算」の各専門職による入力を開始し現在は取得している。

(4) 住民及び他事業所への情報提供

①空床状況表の更新について、年間を通じてコンスタントにショートステイの依頼が入っていたが、新型コロナウイルス感染症の影響により、7月の更新のみとなった。

②他の事業への訪問の際、空床状況表の更新については頻度が少なかったため、7月のみの配布となった。広報誌について、発行月には訪問の際、必ず配布できたことで良い反応があった。

③空床状況表の更新月には緑風館ホームページにアップデートを実施できた。またSNSを活用することで、緑風館での利用者の生活ぶりや職員の支援を地域にアピールできた。

④ ICTの活用については更に推進している。食事摂取量データ管理や床ずれ等医療的なデータ確認、資料作成やレクリエーションの様子を撮った画像・動画等、多岐にわたり活用できた。ネットワーク、パソコン、タブレット等整備することで、リモート研修Web研修の充実、も図れている。

(5) 社会資源との結びつきに対する工夫

①行政、各種関係機関等との連携や結びつきについては、今年度も新型コロナウイルス感染症の影響を受け、様々な催しごとや研修等、開催が難しかった一年であった。

②実習生、ボランティアの受け入れについては、新型コロナウイルス感染症の影響もありながらも、学生ボランティア2名(大学生・特別支援学校)の受け入れができた。これにより、今後の就職受け入れの糧になった。

③施設内ホールの住民への開放を引き続き目指し推し進めてきたが、新型コロナウイルス感染症の影響を受け、今年度も地域支援、地域交流は困難であった。行事やレクリエーションにおいても、学校や保育園をはじめ、地域の方々との交流は難しく、職員や利用者との交流はできなかった。

7 1階介護係

(1) 安全、安心、快適性に配慮された生活の追求

①感染予防対策の徹底と強化

食事席へのアクリル板の設置、継続しての定時の換気、毎日の感染予防の実施、手指消毒の励行、ソーシャルディスタンスの確保を行った。また、クラスターの経験を活かすことによる職員の感染予防の意識、技術の向上に努めた。

②不適切ケアの撲滅推進

不適切ケア防止対策、ケアにおける重点項目を周知することで、利用者をあだ名やちゃんづけで呼ぶ職員はいなくなった。また、虐待防止検討委員会の内容から不適切ケアとはどのようなものであるかを再考し、メンバーでその認識を共有し、ケアにおいて留意した。

③季節感を感じられるフロア行事、環境作りの実施

新型コロナウイルス蔓延の影響により、中止になった行事もあったが、4月に近隣での花見8月にかき氷作り、12月にクリスマスケーキ作りといった、季節を感じられるフロア行事を実施して利用者の笑顔に繋げた。環境面では、フロアの壁面に季節に応じた作品を利用者と一緒に作成して、貼り出した。

④ ICT機器の積極的な活用

ICTの推進により業務の効率化やデータ管理がしやすくなった。各セクションにおいて防犯カメラを設置したことでリスクマネジメント等に活かせるようになり、またタブレットの活用も少しずつであるが充実してきた。

(2) 利用者主体のサービス提供

①エビデンス(科学的根拠)に基づいたケアの実践(自立支援・重症化予防)食事や排泄、移動等、各々のADLやIADLについてアセスメントした上で現存能力を活用してもらえよう自立支援に努めている。利用者個々の能力についてはフロア会議や各種アセスメントツールにより情報収集して検討を行い、ケアに活かしている。

②パーソンセンタードケア(利用者主体のケア)に対する理解を深める

「利用者はお客さまである」という視点を大切に、職員主導になりがちなケアから利用者のことを思いやり、利用者本位でのケアに努めた。

(3) 情報の共有化

①各書式と連絡帳を活用した報告・連絡・相談の徹底

連絡ノート、チェック表を活用して、報告・連絡・相談の徹底を行った。また、申し送り事項の書式化、毎日の更新が定着した。

8 2階介護係

(1) 安全、安心に向けた支援の確立

①毎日、感染予防消毒を行った。新型コロナウイルス感染症発生時には、専用のファイルを更新し、フロア内での感染拡大予防に努めた。4月と9月には休憩の在り方について検討し、改めて周知徹底を図った。

②毎月のフロア会議にて情報共有と対策について検討を行った。感染症対策のため会議が実施できない際は、書面にて情報の共有に努めた。

③食事椅子とスチールラック、棚の購入を行った。毎月のフロア会議で業務の流れを検討し、利用者の状況に応じて、柔軟に変更することができた。その一環として毎日のラジオ体操の時間を作り、職員と利用者が一緒に体操できる時間を設けた。

④ケアプランモニタリングはLIFE活用により、専用の書類を作成し、周知徹底を図ることができた。排泄一覧表のペーパーレス化は会議が中止になることもあり、実施には至らなかった。フロア会議ではICTについて検討し、また見学会に参加することもできた。

(2) その人らしさの追求

①205号室と206号室の準個室化に伴い、居室内をその人らしい環境にする為、担当職員を中心に検討を行った。ベッド位置やタンス位置の調整や思い出の写真を飾る等の対応を実

施した。

②下記のレクリエーションを立案した。

4月	たこ焼き作り	10月	スイートポテト作り
5月	フルーツ白玉作り	11月	秋のお茶会
6月	アイスクリーム作り	12月	お汁粉作り
7月	ミニ喫茶	1月	体操・ボール遊び
8月	プリン作り	2月	お茶会
9月	風船バレー	3月	ボール遊び

※ 7月と1月は感染症対策や職員の人員不足により、中止した。

(3) 個別ケアの充実

①センター方式を活用し、3件のケースについて検討した。精神状態や睡眠時間、音楽療法についての検討とモニタリングを行うことで、統一したケアに繋げることができた。

②業務時間の見直しを行い、午前中にラジオ体操の時間を改めて設けた。職員と利用者が一緒に体操を行うことで、利用者のADLの維持・向上に繋げることができた。

(4) 尊厳への配慮

①フロア会議で虐待や不適切ケアについての話し合いを実施した。また根拠に基づくケアの在り方に関しても都度の業務の中で随時検討を行った。服薬に関する書面の作成や新人職員指導シートの更新も根拠を第一に考え、職員の資質向上に繋げることができた。

②205号室と206号室の感染拡大防止対策における個室化改修を行った。また、排泄委員会と連携し、トイレ内の環境見直しを行ったが、実施には至らなかった。

③虐待防止検討委員会での内容を中心にフロア会議で話し合いの場を設けた。また職員面談の際にも、不適切ケアについての話を行った。結果、不適切ケアへの意識は高くなってきているように感じる。

9 3階介護係

(1) 安心できる生活環境づくり

①感染予防対策については、職員はもちろん利用者にもマスク着用、手洗い、消毒等の使用を徹底し、また定期的な換気に留意し、感染予防に努めた。

②フロア内や居室の環境整備については、リクライニングソファを購入したり、和室前の環境を整備した。居室環境については、利用者にとって使いやすい位置にベッドやタンスを変更することにより、安全面にも配慮できた。

(2) 寄り添うケアの充実

①利用者のニーズについて、フロア会議や申し送り等で検討し、その人らしさを追求した結果、寄り添うケアの充実が図れた。

②業務改善については、排泄時間の見直し等、見直しをすることにより、利用者へのできる限りのケアに繋がった。また職員にとっても時間を有効利用できるよう工夫することで心身の負担軽減に努めた。

③レクリエーションについて、新型コロナウイルス感染症の影響の中、毎月は実施できなかつ

たが、おやつ作りや魚釣り等のレクリエーションを開催することで、利用者にとって楽しい時間が過ごせるように努めた。

(3) 安全性に配慮されたケアの工夫

①各委員会を通し、食事・排泄・入浴等各ケアについて、利用者の状態を把握することで安全で安心できるケアの統一を図った。また、センター方式等のデータを用いることで利用者の状態を把握し、職員間での情報共有に繋がった。

②ケアについて各専門職種間で連携を密にし、情報の共有を図った。ケアマネジメントにおいてもフロア会議を中心に、事前に医療面、栄養面等具体的な課題等を洗い出し担当者を中心にフロアでより良いケアを検討し、利用者の安定した生活を支援している。

③リスクマネジメント力の強化については、フロア会議等でアクシデントやインシデントについて検討し、職員間でのケアの統一や情報共有に努めた。緊急を要する事故リスク等は、その都度迅速に対応するように検討し対策を立てた。

(4) 職員のスキルアップ

①外部研修(リモート含む)に積極的に参加、専門的な技術や学びを得てスキルアップが図れた。

10 看護係

(1) 嘱託医との連携による健康管理

①利用者個々の既往歴については、入所時や病変時等に生活相談員及び介護支援専門員、嘱託医と連携を図ることで状況把握に繋がっている。体調不良時には嘱託医に報告を行い指示を仰ぎ、適切な対応が実施できた。

②定期血液検査や健康診断、各種予防接種のサポートは確実に実施できた。

血液検査	69名	健康診断	66名
インフルエンザ予防接種	60名	肺炎球菌予防	2名
新型コロナワクチン接種	113名		

(2) 感染症等の予防と対策

①感染予防マニュアルの確認を周知をした上で、手洗い、うがい、手指消毒の啓発を徹底して実施。手順教育等は11月に派遣講師を招き施設内研修内で感染症対策について学び、またその派遣講師である認定看護師と共に館内をラウンドする中で助言等をいただき、今後の対策強化と整備の見直しに繋がった。

②感染症発生時対策について、令和3年度の評価・反省を踏まえマニュアル等見直し令和4年10月の1階フロアでの新型コロナウイルス感染症の蔓延は最低限に抑えることができた。令和4年12月発生のカラスタ一時にも迅速な対策は打てたが、様々な影響を受け、想定以上に蔓延が抑えきれなかった。今後も課題として検討が必要。

③マスクやガウン、手袋、手指消毒液等の備蓄は、多職種と連携を図りながら残数をチェックしてその都度追加発注を行い、職員に対して使用喚起に努め定着化に繋がった。マスクに関しては利用者にもできる限りの使用を勧めている。

(3) 床ずれゼロの推進

①各種発見等の活用により早期発見に努め、必要に応じて嘱託医と連携を図り治療を行うこ

とで、早期治癒に繋がっている。

②介護係はもちろん、医療、各委員会との連携による床ずれの早期発見により、早期治療に繋がっている。

区分	完治	継続	退所	発生合計
床ずれ発症者数	1名	2名	1名	4名

(4) 協力歯科医との連携による口腔ケアの充実

①協力歯科医による定期的な歯科健診、口腔内のモニタリングを行うことで、適時要治療者には治療を行いながら、個々に合わせた口腔ケアを行うことにより、口腔内の健康管理に努めることができた。また、特養全体に対しての助言や質問に対する返答も引き続き随時頂けている。

②新型コロナウイルス感染症の影響を受け、食と健康を考える会が開催できなかった月はあったが、看護係や栄養係と連携を図り、歯科健診内容を踏まえて随時情報を更新し、ケアに活かしている。口腔ケアやスムーズな経口摂取に対してモニタリングや検討を行うことで、歯科医と相談しやすい体制は整っている。

(5) 看取りケアの充実

①嘱託医、各専門職との連携を図ることで、6名の利用者の看取りサポートができた。

②嘱託医を中心に多職種連携により終末期を的確に見極め、その人らしい最期を迎えられるよう、本人、家族の意向を尊重し、看取りサポートができた。嘱託医からの相談や説明についても、その都度本人や家族に希望等を確認し、必要に応じて対応している。

③エンゼルケアの充実を図るために研修計画にも当初組み込んでいたが、新型コロナウイルス感染症等の影響を受け、研修は受けられず更なるスキルアップはできなかった。

(6) 機能訓練計画の策定と実施

①個別機能訓練計画書は、3ヶ月毎に評価と見直しを実施した。利用者の心身の変化があれば、都度計画書の見直しを行っている。

機能訓練計画書 更新件数	1階フロア	2階フロア	3階フロア
	71件	96件	72件

②担当者をはじめ介護支援専門員、生活相談員と更新の度に相談し検討を行うことで、利用者個々に合った計画の策定、実施を行っている。

11 リスクマネジメント委員会

(1) 危険予測、事故事例の情報集約と統計分析

①リスクマネジメントについて、情報集約力の強化を目指し、事業所毎の全体集計をとる。これにより、各セクションの事例を共有することで、あらゆる視点から認識することができた。特にひやりハット報告や気づき報告等、事故に至らない軽微なものは、報告書を集約し統計をとることで事故予防に努めたが、昨年度に比べ各種発見報告が71件減、ひやりハット報告が2件減、気づき報告が7件減と全体的に報告数が減少していることが課題となった。職員、各セクションの更なる意識改革等が必要かと考える。

各種発見・事故	400件	ひやりハット	115件	気づき	215件
---------	------	--------	------	-----	------

②各部署ごとの会議を毎月1回行い、事故報告書等の分析と個別ケア検討を実施することで再発防止に努めた。また、リスクマネジメント委員会も毎月行うことで、法人内での情報共有に繋げることができた。事故件数(市への報告事故)は4件であった。

③気づき力の強化を目指し、リスクマネジメントをテーマに令和5年2月度、施設内研修を開催した。その中でKYT(危険予知トレーニング)シートを活用しグループ検討を行うことで、事故予防に対する気づき力のスキルアップが図れた。

(2) 安全性の向上

①福祉機器の定期安全確認として、車いす等の移動機器について各セクションで引き続きデータ管理することにより安全性向上に繋がっている。また、ベッドの更新(10台)を行うことで利用者及び職員にも安全なケアに繋がった。

② ICT化への推進として、防犯や事故等予防対策のための遠隔カメラを11台設置することで、今後の安全性向上に繋がった。

12 身体拘束ゼロ委員会

(1) 身体拘束ゼロの推進

①法人として身体拘束ゼロは継続して実施しており、事故リスクの軽減に努めている。

「リスクマネジメント委員会」においても、積極的な課題解決を実施している。各委員が各セクションに内容を持ち帰り、職員全体に周知を図っている。

②委員会は推進会議内で毎月開催。「身体拘束」の根絶継続に向けて法人全体として意識の統一を図った。各セクションの会議内において、研修会を実施することで理解を深め、日常のケアを振り返ることができた。

③施設内研修については、5月、2月に「身体拘束廃止」をテーマに開催し職員の意識づけの強化を図った。

13 虐待防止検討委員会

(1) 虐待防止対策の基盤強化

①「リスクマネジメント委員会」及び「認知症ケア委員会」等が中心となり、各委員が各部署に内容を持ち帰り、職員全体に周知を図っている。

②各部署でケアについて振り返り、不適切ケア防止策を話し合うことで尊厳に対する配慮、高齢者虐待防止を図っている。また、法人全体において不適切ケア防止対策目標を設定し、定期的に評価することで課題解決や意識づけに努めた。

③委員会の開催は年4回(5月、8月、11月、2月)開催し、高齢者虐待防止、高齢者への尊厳についてふれ、新聞等メディアの報道を具体的にピックアップし、照らし合わせて検討した。

④施設内研修の開催は年2回(4月、2月)に実施。これにより虐待防止や不適切ケア防止の意識向上に努めた。

14 感染症対策委員会

(1) 感染症予防対策の強化(インフルエンザ、新型コロナウイルス、ノロウイルス等の対策)

- ①感染症における業務継続計画への取組みとして、感染対策委員会にて年4回(4月・5月・8月・10月)実施し、業務継続計画を進めることができた。来年度は訓練・研修をとおして、業務継続計画書を完成させる。
- ②看護職員を中心とした施設内研修は6月・11月に2回実施した。11月の研修では外部講師(兵庫県看護協会より)を迎え、感染症の基礎知識から実践研修と実のある研修となった。
- ③今年度も職員や来館業者に関しては手洗いや手指消毒、マスク着用、検温の励行を徹底した。また、兵庫県から抗原検査キッド無料配布事業が開始し、職員・利用者への検査を毎週実施することで、コロナ感染予防に向けての大きな安心材料となった。
- ④淡路島圏域等における感染症流行時の対策を強化するため、インターネットの速報確認や行政、他事業所等の協力を得ながら早期の情報収集に努めた。
- ⑤必要物品(マスク、手指消毒液、加湿器等)の適切な備蓄と活用に関しては、感染症関連用品倉庫を新たに設置し備蓄することで、緊急時に不足することのないように準備した。備蓄に関しては、クラスターリスクも想定し在庫数(3ヶ月分)を確保しておく必要がある。
- ⑥利用者の健康管理については嘱託医、看護係が中心となり多職種協働により実施。変化があれば、迅速に各専門職に相談する体制を整えている。職員・来館者についてもマニュアルに沿って健康管理に努めている。新型コロナウイルス感染症対策として、職員は毎出勤時に検温実施と週1回の抗原検査により体調管理をしている。
- ⑦室内の温度管理や換気は徹底して行った。大型加湿器は、10月～3月まで活用しフロアの温度・湿度の調整をした。

(2) 感染症発生時の対策強化

- ①高熱や症状等により利用者の感染症が疑われる場合は、適時個室や静養室への居室変更を行うことで感染症蔓延防止に努めた。また、各階に感染症対応個室が完成したことにより、他階へ移動をすることがなく対応ができた。
- ②感染予防マニュアルは各セクションに設置している。感染症クラスターを経験することで、随時マニュアル見直しが必要と感じた。
- ③感染症が発生した場合は、関係機関への報告が迅速にできた。職員や家族(特養)への連絡方法にはSNS「れんらくーる」を活用することで、いち早い情報を報告することができた。

15 災害対策委員会

(1) 施設における業務継続計画(BCP)への取り組み

- ①施設の運営と利用者の入所者の身体と生命を守るためのBCPの策定を行った。
- ②2月24日南あわじ市主催の福祉避難所防災訓練に参加した。



- ③9月22日に施設内研修でれんらくーるの試行と、防災グッズの試行をした。

9月24日に停電時の対応について、自家発電機を作動した。

④防火訓練のマニュアルの見直しを随時行い、毎月訓練を行った。

16 栄養管理委員会

(1)健康保持増進への対策

①利用者の健康増進に向けて、委員会を文書確認含め、年6回実施した。

②粥食の種類を増やしてほしいとの希望を受け、土日の朝の粥は「玉子かゆ」をメニューに取り入れた。誤嚥を予防するために、ゼリー食の栄養ゼリーを口腔内で溶けにくい栄養補助食品に変更し、形状も工夫した。

きざみ食は飲み込みやすいように「あん」をかけているが、全体量が多くなってしまったため、「あん」の量を調整した。

(2)食を楽しむ計画作成

①新型コロナウイルスの影響により行事の中止、変更があった。

行事食は委託業者と計画し、年間9回提供することが出来た。中止となったふれあい食事会に変わり『美食ランチ』を実施するため、「食と健康を考える会」を通して利用者の希望を取り入れたメニューを考え、提供することができた。

喫茶コーナーは年間を通して、1Fフロアは4回、2Fフロアは6回、3Fフロアは9回実施した。

(3)施設食基準表の見直し

①ゼリー食での貧血食と糖尿食(1400kcal)は対象者がいない状態が続いていたため、削除した。

17 看取りケア委員会

(1)看取りケアの充実

①委員会活動は感染対策等により委員会が実施できないことがあったが、回覧も交え年4回実施は行えた。嘱託医へ情報提供を行い終末期への体勢を整えた。

②偲ぶ会では、看取りケアのあり方と家族との絆について今一度考える機会となった。意見交換を行うことで、今後のより良い看取りケアに繋げている。今年度は6名について偲ぶ会を開催することができた。

③新型コロナウイルスの感染防止対策の為、施設外研修は全面中止となり、また施設内研修も感染防止の為、開催は行えなかった。リモート研修への積極的な参加を検討した。

(2)快適に過ごせるための環境整備

①各階に、準個室が設備されたことにより既存のフロアで看取りケアを行えるようになった。それに伴い、備品、宿泊に必要な物品の整備など今後の課題が残った。

(3)終末期医療や医療の構築

①「緊急時医療における意思確認書」を作成した。急変時、嘱託医・各医療機関への迅速な対応に繋げることができた。また、看取り体制とケアに関して家族への理解を深める目的で「看取りケア」についてのパンフレット作成に取り組んだ。冊子の完成までは至らず課題が残った。

令和4年4月～令和5年3月まで逝去された人数は 11名

最期を迎えられた居所	居室	静養室	個室
	3名	3名	0名

18 食と健康を考える会

(1) 安全且つ快適な食事環境への整備

- ①毎月身体状況表の見直しを行い、個々に合ったオーバーテーブルや車いす用のテーブルを検討し使用した。
- ②個々に合った食器や自助具の見直しを行った。利用者に適したスプーンの導入により、安面に配慮ができた。
- ③個々に合った椅子やテーブルを使用し、食事に集中できる環境作りを行った。

(2) 協力歯科医師との連携による口腔ケアの実施

- ①定期的な健診(モニタリング)を実施した。
 - ②個々に合った口腔ケアの見直しや疑問点等を歯科医師の助言を基に実施、解消した。
- (3) 食事ケア・口腔ケアにおける質の向上
- ①1件の外部(リモート)研修に参加し、委員メンバーで情報共有し、各フロア職員へ周知した。
 - ②古くなった福祉用具等を新調したり、新しい福祉用具を購入し、福祉用具を有効活用できた。

(4) その人らしさの追求と尊厳への配慮

- ①毎月、委員会にて食事用エプロンの見直しを行った。個々に検討を行うことで、必要不必要の、確認と整理ができた。
- ②食事については、その人に合った食事形態の見直しや自助具に変更し、食べやすい環境を提供した。口腔ケアについては、口腔体操の実施により、嚥下機能低下の防止を図った。また、自身で歯磨きができる利用者は洗面所へ案内し、口腔ケアを勧めることで健康維持に努めた。

19 排泄委員会

(1) 快適な排泄環境の実現

- ①個別排泄ケアとして年2回(6月と12月)の尿量測定と、定期的な見直しを実施し、47名の方が排泄用具の変更を行う事ができた。
- ②紙パンツから下着(コットンパンツ)へ、4名の方に対して見直しを行う事で快適性やコストの削減を達成する事ができた。

(2) スムーズな排便への取り組み

- ①スムーズな排便への取り組みとして、今年度77件を検討した結果、12名の方への効果があった。下剤の服用と浣腸の回数も減少しており、スムーズな排便への取り組みに繋がっている。

スムーズな排便への取り組み実施件数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1階	4	5	3	0	5	2	0	1	1	0	0	0
2階	6	0	2	1	1	3	2	7	3	2	2	0
3階	1	4	4	1	4	4	2	0	5	1	1	0

(3)自立支援を踏まえた排泄ケアの実施

①安全且つ統一された排泄介助の代替えケアを検討し、実施する事で年間2名の利用者についてトイレが可能となった。

②個人別排泄留意表の作成、更新を毎月行いながら、排泄用具や排泄ケア内容等の整合性を確認できた。

(4)排泄ケアの知識向上

①コロナウイルスの影響はあったが、リモートワークによる外部研修や花王による勉強会ができ委員会で知識を深めた。また、職員に資料等を配布し知識の周知を行った。

(5)コストの削減

①各フロアの排泄委員にて、排泄用具が適切に使用されているかを介助時に確認を行っている。また、排泄表の更新を毎週実施している。排泄用具の見直しや試行観察も適時、行っている。

②毎月、排泄委員長と業者が連携を図り在庫管理を実施し、使用量の把握を行っている。業者との報告、連絡、相談はメールを通じて行う事で迅速な対応も可能となっている。

③タブレットのデータ管理とペーパーレス化については、検討を行ってきており、感染症対策の影響により会議等が行えず実施に至らなかったが、実施に向けての基盤作りを行う事ができた。

(6)感染予防の徹底

①排泄時の手指消毒については、手洗いの重要性の勉強会を通じて、排泄委員が中心になり各フロアでの呼びかけや、勉強会の資料の配布の実施、手指消毒を実施できるようアルコール消毒の設置場所の見直しを行い手指消毒の徹底を図った。

②排泄における感染予防の勉強会を実施した。改めて周知することで手袋の交換を徹底し感染予防に繋げる事ができた。

20 入浴委員会

(1) 安心、安全への配慮

①6月と12月に大掃除を実施し、普段洗えていない場所の清掃を行った。高圧洗浄機等を使用することにより、排水溝やタイルのカビ清掃をスムーズに実施することができた。

②入浴に関するひやりハットや気づき報告(機械浴のお湯抜き忘れ、補充不足等)に対して、委員会内で今後の対策を検討し、各セクションへの報告を行った。

③浴室、脱衣室内の環境整備については、適時整備に努めた。未使用である福祉用具の撤去を行った。鑑賞用として浴室に植物(アロエ)を置き、リラックスできる環境作りに取り組んだ。

④物品の故障や破損等があった際には、適時業者に修理依頼した。また、委員会が中心となり点検や物品購入を行い、在庫切れや不備のないよう取り組めた。

(2)入浴ケアの統一化と充実

①曜日別入浴表については毎週、貴重品所持者一覧表については随時変更をした。個別入浴ケア方法については、年4回の更新を行った。新規利用者、状態変化時には、速やかに定期更新書類の変更を行い、統一したケアに努めた。

(3)「お風呂が楽しみ」への迫及

①5月と10月に入浴に関するアンケートを実施した。入浴に関する希望を聞き取ることで、個々に

応じた快適な入浴に繋げることができた。

②年5回、季節湯を実施した。季節の果物等を使用することで、季節を感じてもらえたり、会話も弾み楽しんでもらった。

③リラックスできる音楽を流したり、心地よい室温管理に努めた。また入浴剤については香りや色を変更することで、快適な入浴に繋げるよう努めた。

(4)肌ケアへの取り組み

①5月に肌ケアに関する勉強会を実施し、肌ケアに対する知識の習得に努めた。

②肌ケア対象者6名に対し、軟膏や保湿クリームを使用することにより、痒みの軽減に繋がったと思われる。乾燥肌や痒みがみられた際は、早急に看護職員と連携を図り対応に努めた。肌にやさしく、泡立ちの良い素材の洗身タオルを購入し、擦らない優しい洗身に取り組んだ。

21 認知症ケア委員会

(1)認知症に対する理解力の向上

①委員会内で研修会を開催し、4大認知症(アルツハイマー型認知症、レビー小体型認知症・前頭側頭型認知症・脳血管性認知症)や認知症に対する薬や精神薬等について、改めて理解する事ができた。各セクションには発信できなかった。

②BPSD(認知症の行動・心理症状)について改めて理解するために、委員会内で研修会を開催した。これにより、認知症に対するケアの在り方を再確認することができた。

コロナウイルス感染で委員会内だけの研修会だけで各セクションには周知はできなかった。

(2)認知症ケアの充実

①各セラピーの効果について研修会を開くことで理解を深め、各セクションで実施した。

セクション	セラピー種別	対象人数	効果
1階フロア	アクアセラピー	0	—
2階フロア	音楽療法	2名	○
3階フロア	シニアセラピー	2名	○
デイサービス	園芸療法	全員	○
みどりの家	アートセラピー	3名	○

②センター方式・アセスメントシートの活用(特養入所のみ実施)

1階フロア	1名	2階フロア	2名	3階フロア	1名
-------	----	-------	----	-------	----

結果、生活リズムを観察、分析することで日中の様子や夜間の不眠や、精神状態の安定、服薬の見直し等効果がみられた。

③パーソンドセンタードケアの理解とひもときシートについても、寄り添うケアについて勉強会を開き、その本人(利用者の立場に立ち物事を考え、その人の気持ちに寄り添う)事の大切さを学べたが、各セクションでは実施できなかった。

(3)認知症ケアに対する振り返り

①各セクション(特養・デイ・みどりの家・事務所)でアンケートを実施した。

また、セクションでも不適な言葉かけに対し、目標と対策を考え認知症ケアメンバーが主になり行普段のケアについて個々に振り返りや見直しに繋がった。

- ②言葉かけ・不適切ケアに対するアンケートの実施結果を元に施設内研修として発表を行った。不適切なケア(言葉づかい)を議題としてグループワークを通じて発表を行ってもらった。全職員に発信する事でケアに対して個々の振り返るきっかけに繋げる事ができた。

22 環境を考える会

(1) 安心、安全、快適性の追求

① 感染対策を意識された新しい生活様式への柔軟な対応

感染症の集団感染の経験を活かし、テーブル席の人数制限、相手と適切な距離を保ちアクリル板を設置した。また、ハンドソープの継ぎ足しを止め感染症対策を行った。

② キャプションシート(環境評価シート)の活用

他のセクションの評価を行い、各セクションの良いと感じられる所、悪いと感じられる所、不思議だと感じられるところを各委員の違った視点から捉えることができた。結果、環境の改善に繋げることができた。

〈1階〉 〈改善前〉



〈改善後〉



《改善後の状況》

壁面に作品を飾り、ソファを置くことで、休憩できるスペースができた。

〈2階〉 〈改善前〉



〈改善後〉



《改善後の状況》

鏡の周囲を飾り付けすることで、華やかな環境へ変わる。ペーパーホルダーを追加することで衛生面でも配慮できた。

〈3階〉 〈改善前〉



〈改善後〉



《改善後の状況》

展示スペースに作品を飾ることで、利用者は足を止め見てくれるようになった。利用者の笑顔も増えた。

〈デイ〉 〈改善前〉



〈改善後〉



《改善後の状況》

棚を壁に付け、保管場所を作ることによって利用者自立支援への行動に繋がった。配線もすっきり収納できた。

〈事務所〉〈改善前〉



〈改善後〉



《改善後の状況》

福祉用具や書類を整理することで展示スペースを活用する人が増えた。

〈みどりの家〉〈改善前〉



〈改善後〉



《改善後の状況》

収納棚を置くことで物品整理ができた。

(2) 環境アプローチへの質の向上(視点の質、モチベーションの向上)

① 環境コンテストの実施

セクションでテーマを決め、写真とコメントを記載し掲示する。13名の審査員に投票していただき優秀作品が決まる。コンテストを開催することで、環境を改善する取り組みができた。

② 快適な環境を目指した定期的な更新(粗大ごみの処分活動等)

5月、11月に環境を考える会のメンバーが参加し、粗大ごみの処分活動を行った。

23 ポジ・トラ(ポジショニング・トランスファー)委員会

(1)利用者の安楽な姿勢や活動しやすい姿勢の保持

①6月に委員メンバーにて、ポジショニングやシーティングについて外部研修資料やガイドブックを見ながらお互いの意見を出す事で理解を深められた。

②ポジショニングシートの活用については8件のケースについて活用し、拘縮予防につなげるためのケアを確立することができた。

③シーティングシートの活用については2件のケースについて活用。姿勢の安定につながった。

(2)床ずれの早期発見、予防、治療

①6月に床ずれができる原因と予防策、医療との連携について勉強会を開催した。除圧の仕方や発赤を予防できるような福祉用具も検討した。

②館用でクッションを購入して試行をする事で、適切な福祉用具の選定を行えた

試行クッションがある事で本人にあった福祉用具を選定できた。居室に写真を掲示して職員間で統一した。

(3)利用者や職員への負担が少ないやさしいケア

①委員会との連携では入浴委員会とのリフト使用するための対象者選定や、入浴状況表の改訂を予定していたが、新型コロナウイルスと人員不足の影響もあり中止した。

②移乗、移動用福祉用具については、業者や商品を検討したが、コロナ感染の影響もあり導入には至らなかった。

24 広報委員会

(1) 地域に向けた定期的な広報活動

- ① 緑風会の財務状況、施設の情報を随時更新した。
- ② フェイスブック・インスタグラム・YouTubeに年間行事や施設内研修、日々の生活等の情報を投稿した。

facebook 21投稿

YouTube 1投稿 チャンネル登録者 143人(前年度40人増)

Instagram 28投稿 フォロワー数 71人(前年度18人増)

- ③ 緑風だよりを年1回発行し、利用者・家族・他事業所・地域の方に配布した。

(2) 施設内における写真の展示

- ① 第3回緑風会フォトコンテストについては、コロナ感染症の影響により作品の応募までに至った。

25 衛生委員会

(1) 職場環境における安全性の確保

- ① 共有箇所の4S活動について担当者と具体的実施内容を明確にし、実施評価した。
- ② 労働災害については「作業環境」「作業内容」「疾患等罹患リスク」について委員会で検討し、対応策を実施することで予防に繋げることができた。今年度の労働災害は0件あった。
- ③ 施設内の床材等、劣化や破損している箇所の修繕工事を行った。

(2) 職員に対する心身の健康管理

- ① 年2回健康診断を実施し、有所見者には2次検査受診を勧めることで、職員の健康維持に努めた。
- ② 全職員(80名)ストレスチェックを行い、今年度10名(去年度14名)の高ストレス対象者という結果であり高ストレス者対象者については、いつでも産業医に助言してもらえる体制をとって対応した。メンタルヘルスケアについては、外部講師による研修により理解を深めた。
- ③ 腰痛予防について、年1回、腰部保護ベルトの使用状況調査を行い、腰痛者を把握し産業医の意見をもと改善に努めた。腰部保護ベルト使用率は前年度48.8%に比べ、今年度は1.2%増加した。腰部保護ベルト使用者は下記参照。

		常用	頻繁	痛い時	ほとんど未使用	夜勤時のみ	未使用	使用率
令和4年度	腰部保護ベルト使用者数(総数83名)	14名	2名	15名	6名	3名	40名	50%
令和3年度	腰部保護ベルト使用者数(総数83名)	10名	3名	21名	5名	2名	40名	48.80%

- ④ 感染予防対策については4S活動と連動し、職場内を清潔にすることとしていたが、具体策として活動されているか不明瞭な箇所もあった。
- ⑤ ハラスメント予防対策の実施は、前年度の研修参加した以外は実施していない。

26 地域交流委員会

(1) 地域住民との交流

① 各地域老人会や各種団体の行事への参加(地域の祭り、梅まつり等)

日時	行事	内容	参加人数
5月22日	近隣清掃	草刈り	8名
7月17日	愛宕神社	清掃・神事参加	延期
	近隣清掃	草刈り	
10月9日	近隣清掃	草刈り	7名
3月5日	広田梅林	梅まつり手伝い	1名
3月12日	愛宕神社	清掃	4名
3月17日	愛宕神社	神事参加	1名

上表の通り、合計21名の職員が携さわってくれた。

不藤・広田南地区をはじめ、緑地区の住民との交流の機会があったが、施設・事業所のコロナの状況により、交流を控えたことが多かった。

② 出張講座、介護者教室の実施

7月27日 広田地域づくり協議会 集いと学びの場
 かわた歯科「フレイル予防」
 緑風館「認知症予防」 参加者 23名

(2) 地域支援

① ウエルシア広田店のウエルカフェを利用し、介護相談会を実施した。

日時	内容	介護相談	参加者
4月15日			
5月15日	折り紙タングラム		3名
6月15日	七夕飾り		5名
7月15日	うちわ作り		7名
8月22日	モビール作り		7名
9月15日	くるくるレインボー		5名
10月17日	かぼちゃの置き物		3名
11月15日	クリスマス飾り		8名
12月15日	干支の置き物		8名
1月16日	節分の小物入れ	3名	9名
2月15日	雛飾り		7名
3月15日	切紙飾り	1名	6名

今年度は、毎月開催できた。

誰もが参加しやすい様に、工作作りを行った。

介護相談者の内、1名がケアマネジャーの登録につながった。



- ② 地域サポート施設活動として地域の高齢者11名の登録があった。
- ・安否確認の訪問 延べ61件
 - ・安否確認の電話 延べ369件
 - ・外出支援サービス 延べ161件（金融機関、買い物、医療機関へ）
 - ・その他 延べ12件（薬の受け取り）
- ③ 不藤、広田南地区の方中心に毎週木曜日9時30分から1階食堂を開放していたが、コロナ禍のため中止。

(3) 社会福祉法人としての公益性の遂行

① ほっとかへんネットの活動への参加

- ・実務担当者会議は、奇数月に開催ありオンライン形式で参加した。(5回)
- ・実務担当者内では、4つのグループに分かれ、それぞれの目標にむけて活動を行った。
- ・コロナ感染症の状況をみながら、研修の開催・参加を行った。
(広報・チラシの作り方、権利擁護研修)
- ・南あわじ市防災訓練へ参加し災害ボランティアセンター設置訓練を行った。
- ・兵庫県災害派遣福祉チーム(DWAT)へ5名登録し、基礎研修を受けた。
- ・推進会議は、3回開催され参集型・オンライン型の形式で参加した。

27 入所検討委員会

(1) 緊急性、必要性の高い人へのスムーズな入所検討

① 月1回検討会を開催し、緊急性や必要性を鑑みて検討した。

入所区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
入所待機者	58	47	54	56	56	57	63	68	/	72	75	70
新規申込者	7	9	11	5	3	4	6	6	/	14	10	6
申込取消者	9	17	7	3	3	3	0	1	/	10	7	10

* 12月は、新型コロナウイルス感染症の蔓延の為、会議が開催できなかった。

- ② 年1回(3月)に状況確認を行った。
- ③ 7月に南あわじ市・洲本市・淡路市へ申込状況調査を報告した。

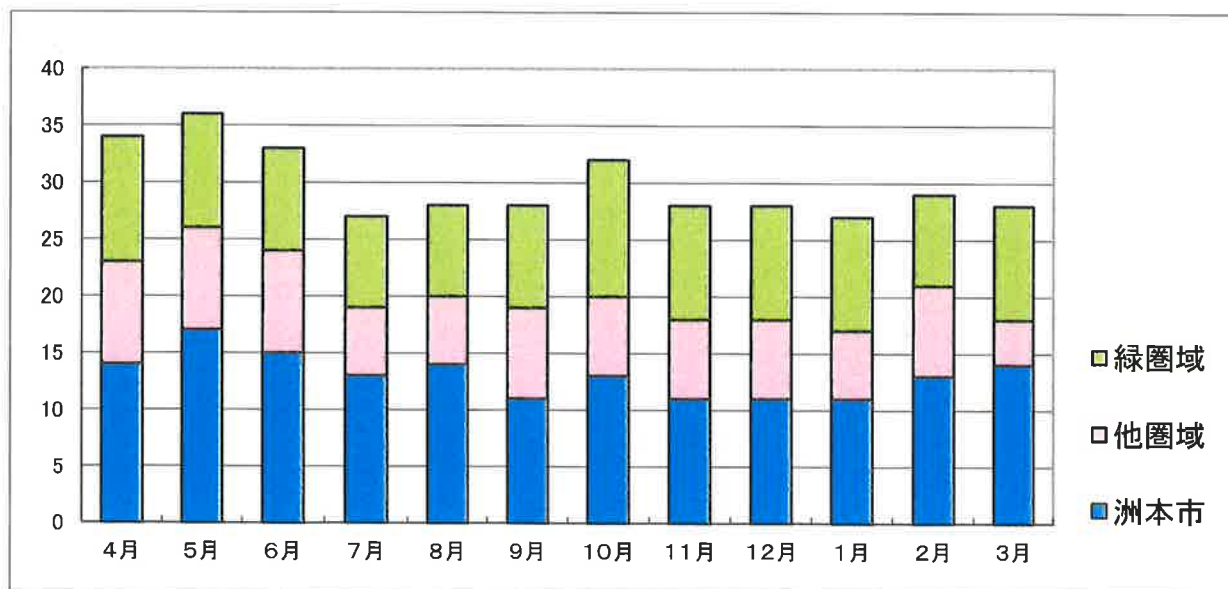
Ⅲ 短期入所生活介護事業

1 施設 の 概 要

- [1] 名 称 特別養護老人ホーム 緑風館
- [2] 所 在 地 兵庫県南あわじ市広田中筋1025-19
- [3] 開 設 平成6年6月20日
- [4] 設 置 運 営 社会福祉法人 緑風会
- [5] 定 員 10名

2 市町別利用状況

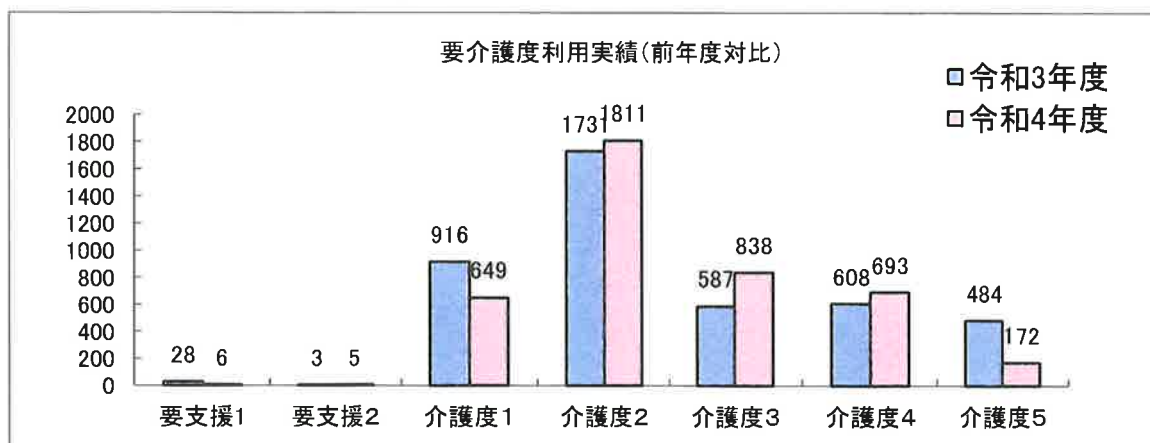
区分		令和4年度												合 計	
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月		
南あわじ市	緑圏域	実人数	11	10	9	8	8	9	12	10	10	10	8	10	115
	緑圏域	延人数	140	172	146	92	126	136	134	116	94	78	112	145	1491
	他圏域	実人数	9	9	9	6	6	8	7	7	7	6	8	4	86
	他圏域	延人数	136	119	123	78	106	130	135	99	72	105	70	59	1232
洲本市	実人数	14	17	15	13	14	11	13	11	11	11	13	14	157	
	延人数	172	164	123	97	130	114	106	110	89	111	113	122	1451	
実人数合計			34	36	33	27	28	28	32	28	28	27	29	28	358
延人数合計			448	455	392	267	362	380	375	325	255	294	295	326	4174



3 要介護度別利用実績

区分		3年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
要支援1	人	7	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	2
	延	28	0	0	0	2	0	0	4	0	0	0	0	0	6
	平均	2.0	0.0	0.0	0.0	2.0	0.0	0.0	4.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.5
要支援2	人	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1
	延	3	0	0	0	0	0	0	5	0	0	0	0	0	5
	平均	0.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	5.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.4
要介護1	人	67	4	3	4	3	3	2	5	4	4	6	6	6	50
	延	916	63	57	54	41	53	41	56	50	41	64	59	70	649
	平均	13.7	15.8	19.0	13.5	13.7	17.7	20.5	11.2	12.5	10.3	10.7	9.8	11.7	13.0
要介護2	人	126	10	14	11	13	15	12	11	11	12	11	11	10	141
	延	1731	152	191	161	142	193	160	140	126	118	144	131	153	1811
	平均	13.7	15.2	13.6	14.6	10.9	12.9	13.3	12.7	11.5	9.8	13.1	11.9	15.3	12.8
要介護3	人	63	13	9	11	7	6	10	8	8	6	4	6	7	95
	延	587	135	68	94	47	49	96	86	80	56	59	35	33	838
	平均	9.3	10.4	7.6	8.5	6.7	8.2	9.6	10.8	10.0	9.3	14.8	0.0	4.7	8.8
要介護4	人	35	5	8	6	2	3	3	5	4	5	5	5	4	55
	延	608	74	125	67	25	46	73	70	51	24	21	60	57	693
	平均	17.4	14.8	15.6	11.2	12.5	15.3	24.3	14.0	12.8	4.8	4.2	12.0	14.3	12.6
要介護5	人	30	2	2	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	14
	延	484	24	14	16	10	21	10	14	18	16	6	10	13	172
	平均	16.1	12.0	7.0	16.0	10.0	21.0	10.0	14.0	18.0	16.0	6.0	10.0	13.0	12.3
合計	人	329	34	36	33	27	28	28	32	28	28	27	29	28	358
	延	4357	448	455	392	267	362	380	375	325	255	294	295	326	4174
	平均	13.8	13.2	12.6	11.9	9.9	12.9	13.6	11.7	11.6	9.1	10.9	10.2	11.6	11.6

※ 人(実人員) 延(延べ利用日数) 平均(ひとり当り利用日数)



IV 通所介護事業

1 施設の概要

- [1] 名称 緑風デイサービスセンター
- [2] 所在地 兵庫県南あわじ市広田中筋1025-19
- [3] 開設 平成6年7月1日
- [4] 設置運営 社会福祉法人 緑風会
- [5] 利用定員 35名

2 利用者状況

① 地区別利用者数(登録者数)

区分		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
南あわじ市	広田広田	7	8	8	8	7	7	6	6	6	6	6	6
	広田中筋	7	7	7	8	8	8	9	8	8	7	5	4
	山添	1	1	1	2	2	2	4	3	2	2	2	2
	中条中筋	7	7	7	7	7	6	6	5	5	5	5	5
	中条徳原	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
	中条広田	2	2	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
	倭文庄田	0	1	1	1	1	2	2	2	2	2	2	1
	倭文長田	0	1	1	1	1	1	0	1	1	1	1	1
	倭文土井	2	2	2	2	2	2	3	2	2	2	2	2
	倭文安住寺	1	1	1	1	2	2	2	2	2	2	2	2
	松帆地区	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
	市地区	2	2	2	2	2	2	1	1	1	1	1	1
	榎列地区	3	3	3	3	3	3	3	3	4	4	5	4
	八木地区	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
神代地区	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	
洲本市	前平・木戸・池内	7	7	7	7	6	6	6	5	5	5	5	5
	宇原	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	2	2
	大野・金屋	3	4	2	3	4	4	5	5	5	5	5	5
	鮎屋	3	3	3	3	3	3	3	2	3	3	2	2
	千草	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	3	3
	納	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
	物部・海岸通り・本町・塩屋・栄町	4	4	4	4	4	4	4	3	2	2	4	4
	桑間・内膳・加茂・宇山	3	3	3	2	1	1	3	2	2	2	3	3
鳥飼	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	
計	64	68	65	67	66	66	70	63	63	62	65	62	

② 年齢別利用者状況(令和5年3月31日現在)

区分	60歳代	70~79歳	80~84歳	85~89歳	90歳以上	合計
支援	0	0	2	5	4	11
介護	1	7	10	13	20	51
計	1	7	12	18	24	62

3 生活相談員

(1) 在宅生活の継続支援

- ①送迎時や電話連絡にて、在宅での状況を確認し、家族と情報共有を行った。
- ②ケアマネジャーからの依頼にて、担当者会議に参加し、情報共有を行った。
 コロナ禍の為、書類での情報提供も多かった。利用者の状況の変化があった際には、担当者会議を依頼し、利用事業所との情報共有を行い支援した。
- ③利用時やケアプラン等で、ニーズの把握を行い支援を行った。

(2) 利用率90%以上の達成と継続維持

- ・平日の目標29名に対して、目標達成率 86.8%。1日平均 25.2名
- ・土曜日の目標13名に対して、目標達成率 97.6%。1日平均 12.7名

令和4年度 実人数

区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
開所日数	26	22	26	17	27	22	22	24	18	24	24	27	279
体験利用(見学含む)	1	3	3	0	1	2	2	2	1	3	4	1	23
新規	要支援	0	1	0	0	0	1	1	0	1	0	1	6
	要介護	4	2	2	2	0	1	4	2	1	0	3	22

令和4年度 実利用者数

区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
要支援1	実	5	5	4	4	4	5	4	4	4	5	3	4.3
	延	27	28	27	15	25	24	20	26	16	21	24	18
要支援2	実	5	6	8	8	6	6	6	7	8	8	7	7.0
	延	34	37	47	26	35	33	31	39	29	36	34	53
要介護1	実	20	22	22	22	23	24	25	26	22	21	23	22.8
	延	226	248	245	163	266	260	242	287	173	192	227	233.2
要介護2	実	19	16	15	16	15	15	14	16	15	12	14	15.0
	延	198	172	151	116	141	152	123	161	126	153	142	149.6
要介護3	実	7	8	10	11	11	11	11	10	9	8	8	9.3
	延	53	55	74	48	115	120	86	91	62	65	83	79.5
要介護4	実	5	5	5	5	3	3	3	3	2	2	2	3.3
	延	24	25	28	16	22	22	14	18	12	21	32	22.3
要介護5	実	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
	延	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
総合計	実	61	62	64	66	62	64	63	66	60	55	59	61.7
	延	562	565	572	384	604	611	516	622	418	488	542	652.0

開所日数	279	1日平均	23.4
------	-----	------	------

- ①介護報酬改定内容を理解し、機能訓練加算 I 2の取得を行った。
- ②担当ケアマネジャーへは、毎月訪問し、利用実績と担当利用者の状況を写真入りで報告した。
- ③入院・利用休止者に電話連絡やご自宅への訪問、ケアマネジャーに状況を確認した。
- ④13名の利用者に対応して半日利用や入浴のみ、短時間利用を調整。(前年度10名)。
- ⑤23名の体験利用(見学含む)のうち18名が新規利用につながった。
- ⑥キャンセルの連絡時には、内容を確認し、訪問や再度連絡を行った。

(3) 専門職としての資質向上

- ①全職員を対象に月1回会議を開催し、支援方法や業務について意思統一を図った。
- ②施設内研修の開催は少なかったが、書類等での情報収集・共有を行った。
- ③認知症基礎研修の受講は行っていない。
- ④新型コロナウイルス等の感染症予防・対策について委員会で情報収集を行った。
コロナの影響により、7/16～23. 29～30. 10/19～22. 12/22～29の20日間営業を休止した。
- ⑤職員個々に目標シートを用いて年2回の面談を行う事で進捗状況の確認ができた。

4 介護係

(1) 自主活動・自立への支援

- ①利用者自身に役割を担っていただくことで、在宅生活が継続できるよう意識づけをし、心身の機能維持に「繋げた」。(食事の配膳・おしぼり巻き配り・おやつ準備等)
利用者ご自身も自主的に参加している。



お茶準備



食事の準備

- ②利用者や家族と情報交換を行い、クラブ活動への参加、役割を担って頂くことで心身の機能維持や家族の負担軽減を支援した。
- ③利用者が作業しやすいテーブルや鏡の高さ、表示など環境整備することで活動への参加が増えた。



昼食準備



ドライヤーかけ

- ④個々の生活や得意分野を把握し、利用者が意欲をもって考えて行動することで、日常生活動作(ADL)の維持と認知症の進行予防の支援を行った。
- ⑤利用者自身の持つ力を活かしながら、ゆっくりと入浴できるように支援した。

感染予防対策として、浴室内に入る利用者の人数を制限して対応した。

その日の状態に応じ一般浴と中間浴の利用を検討し、安心して入浴できる体制をとった。

入浴時間は午前と午後に分け、入浴剤やゆず湯など、リラックスできる環境を継続した。

- ⑥季節にあった行事食や、自施設で育てた農作物を使った旬の食べ物を提供できた。
- ⑦毎食前の嚥下体操、毎食後の口腔ケアを継続した。
- ⑧感染予防対策として、座席数を制限し対応した。安全に過ごせるように、環境に配慮した。継続して、パテーションやカーテンなどを設置し、プライバシーへの配慮を行った。

(2) 衛生管理・感染予防

①職員は、出勤・退勤時、作業前に手洗い・消毒、出勤時の検温を行った。毎月の職員目標等にも感染予防の目標を掲げ、職員の意識づけを継続して行った。

利用者にも、来館時、食事前等の手洗い・消毒の実施を声かけし実施した。

②感染予防対策委員会、地域の感染状況や対策について、常に情報収集し職員に周知した。

(3) 社会参加への支援

①デイサービスを利用し役割を担っていただくことで、利用者自身の意欲向上、できることの発見と活気ある生活に繋げることができた。

利用者から、「何かできることがあれば、言って下さい。」との声が多数、伺えた。

②利用時には、職員や他の利用者と交流を図り、笑顔が見られた。

久しぶりに会った利用者同士もあり、喜ばれる場面も見られた。

③活動の中で、雑巾を作ったが、コロナ禍の為、地域交流が行えず、寄贈できなかった。

④外出行事は、人との触れ合いを回避して実施。ドライブを通して、地域へ出向く事ができた。

5 機能訓練指導員

(1) 利用者の心身機能の維持向上・自立支援

個別機能訓練加算人数

「要支援訓練加算」 生活機能向上グループ加算：100単位 運動器機能向上加算：225単位/月

区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
運動器機能向上	10	11	11	11	10	11	10	11	12	12	12	11	132

区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	
個別機能I	実	43	46	48	50	46	49	50	51	45	43	45	46	562
	延	461	473	470	327	521	534	445	538	363	416	474	537	5559

①職員が関わる中で、できることを見つけ、取り組むことで、意識の向上・自立支援へ繋げた。

②自分の意思でクラブを選択し、より自主的に楽しくクラブやリハビリ活動ができた。

③個々の状態、生活環境を把握し、座る・立つ・歩く等の身体機能が維持・向上できるよう

訓練の実施をした。



平行棒運動



個別階段運動

- ・ 調理や洗濯、掃除の活動、役割づくりを通して社会参加・心身機能の向上を支援した。



調理



洗濯物たたみ

- ・ 5人程度の小集団や個別での訓練を実施。



集団体操



屋外散歩

6 看護係

(1) 利用者の健康管理

- ①朝礼で情報を共有し、自宅への迎え時、利用開始時の健康状態を共有した。
- ②フロアに温度・湿度計を設置し、湿度が低い時には加湿器を使用し乾燥予防に務めた。
- ③慢性疾患による水分、食事制限者への継続対応、認知症テストによる早期発見を行った。

(2) 感染予防対策

- ①迎え時、来館時、昼食時、おやつ前、帰宅前には、手洗い・消毒を励行し、感染予防に努めた。また、不織布マスク着用と予備マスク持参を促した。
- ②リハビリ機器、クラブ活動道具、机や椅子など使用した物品は使用後に消毒を実施した。
- ③週1回、床を次亜塩素酸ナトリウム溶液で清掃した。
- ④毎日の利用者への感染予防協力の呼びかけを行った。今年度2回通知を利用者、家族に送付し、感染予防協力の啓発を行った。
- ⑤本人または同居家族において風邪症状や発熱がある、PCR検査等を受ける予定の場合は当事業所へ連絡していただくようにした。
- ⑥コロナウイルスへの感染予防も含めて、体調不良時の対応フローチャートを作成し、家族へ周知した。また、送迎時には、体温測定・手指消毒の実施、玄関フロアで体温測定を実施した。

7 クラブ活動

クラブ活動は、利用者が選択できるよう、3メニュー用意し活動参加している。

今年度は、感染予防対策を重視し、3密対策に注意して実施した



ぬいぐるみ落とし



グランドゴルフ



サイコロけり



工作



塗り絵



園芸

8年間行事

外出行事は買い物とドライブを行った。

季節の行事は、利用者同士が密にならないように工夫して、実施した。



夏祭り



ドライブ



寿司パーティー



運動会



買い物外出



豆まき会

緑文化展への出品作品



裏庭で育てた野菜を調理して、食べました。



野菜の収穫



ゴーヤチップス



ぬか漬け

V 小規模多機能型居宅介護事業

1 施設の概要

- 〔1〕 名 称 みどりの家
- 〔2〕 所在地 兵庫県南あわじ市広田広田424-1
- 〔3〕 開 設 平成21年4月1日
- 〔4〕 設置運営 社会福祉法人 緑風会
- 〔5〕 利用定員 登録 25名 通い 15名 泊まり 9名
- 〔6〕 土地・建物 敷地面積 247.93㎡(借地)
建物構造 鉄骨造亜鉛メッキ鋼板葺2階建
建物延面積 372.48㎡

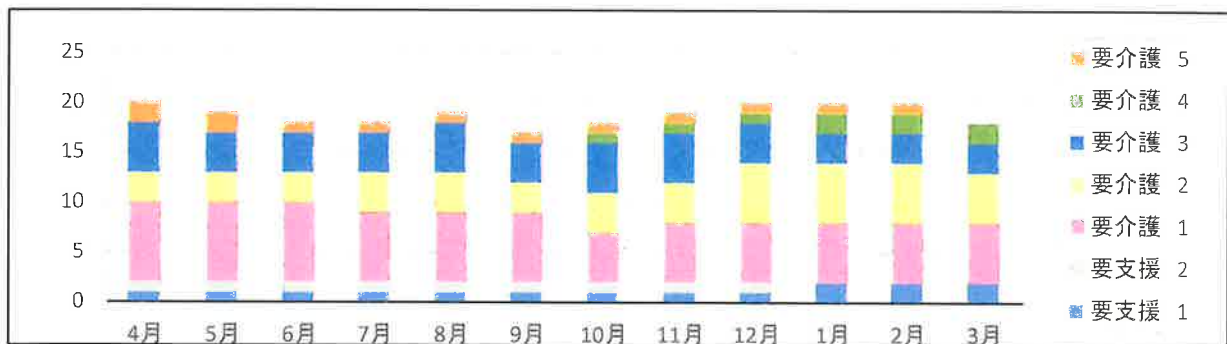
2 管理者

(1) 目標登録件数の確保

① 登録者22名(介護17名 支援5名)の確保

【 登録者数 】

区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
要支援 1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	2	2	2	1.3
要支援 2	1	1	1	1	1	1	1	1	1	0	0	0	0.8
合計	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2.0
要介護 1	8	8	8	7	7	7	5	6	6	6	6	6	6.7
要介護 2	3	3	3	4	4	3	4	4	6	6	6	5	4.3
要介護 3	5	4	4	4	5	4	5	5	4	3	3	3	4.1
要介護 4	0	0	0	0	0	0	1	1	1	2	2	2	0.8
要介護 5	2	2	1	1	1	1	1	1	1	1	1	0	1.1
合計	18	17	16	16	17	15	16	17	18	18	18	16	16.8
総合計	20	19	18	18	19	17	18	19	20	20	20	18	18.8



【 サービス実績 】

サービス	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
通所 (1日あたり)	367	370	386	411	409	405	403	390	395	413	419	466	403
宿泊 (1日あたり)	240	248	219	219	219	218	197	192	181	209	210	239	216
訪問 (1日あたり)	67	51	50	54	49	42	36	33	40	47	59	60	49
短期利用	0	0	0	0	7	0	16	21	23	0	0	4	71

② 事業所活動の情報発信

新型コロナウイルス感染症の影響により、地域や各種団体、事業所への情報発信は思うように出来なかったが、地域ケア会議に出席や広田中田地区の回覧で事業所の活動紹介ができた。

(2) 施設サービスの充実

- ① 5月、6月、11月、2月に各1名が外部研修に参加出来た。
- ② 満足度調査は実施出来なかった。
- ③ 運営推進会議では、地域の課題を議題に入れ情報の共有を行った。
- ④ 四季折々の作品作りを多く取り入れた。施設内の展示個所を増やして季節感を演出した。
- ⑤ 地域ケア会議は、新型コロナウイルスの影響で会議が中止になることがあったが、(4月、5月、6月、7月、10月、11月、12月、3月)出席した。
- ⑥ 中田地区の防災研修に参加、広田小中保合同避難訓練に参加した。
- ⑦ ボランティア、集いの場の提供は、感染拡大防止対策の為、受け入れることができなかった。

3 介護支援専門員

(1) 24時間、365日その人らしい暮らしへの支援

- ① 南あわじ市居宅介護支援専門員会に参加し、知識や制度のブラッシュアップに努めた。
- ② 食事、入浴のみの通いサービス利用(出来るだけ自宅に居たい方)や、認知症で薬の服薬が出来ない方の服薬確認の訪問など、ライフスタイルに合った支援をした。
- ③ 入院時には、入院に伴う介護情報提供書を迅速に医療機関に提供(13件)ができた。
- ④ 新規利用者や状態変化した利用者とのカンファレンスを実施した。

4 看護係

(1) 感染症の発生・まん延予防

- ① 新型コロナ感染症対応時のマニュアルを見直した。
- ② 手洗い、手指消毒の徹底を職員、利用者、来所者で行い衛生管理、感染症予防に努めた。
- ③ 施設内ではマスク着用の徹底を行った。通い利用者は、自宅での検温実施。来所者は、玄関での検温実施。職員は就業前に検温実施を徹底した。
- ④ 長期宿泊者の面会を控えていただき、タブレットを使ったオンライン面会等で感染予防に協力いただいた。
- ⑤ マスク等防護対策用品や手指消毒液等が不足しない様、在庫管理を適切に行った。
- ⑥ 看護職員、介護職員間での情報共有を図り疾患の早期発見と早期受診に繋げた。
- ⑦ 換気チェックシートを活用して食事時と2時間毎の換気を行った。
- ⑧ 感染予防対策、発生時等の研修はできなかった。

(2) 体調管理の支援

- ① 新規利用時に既往歴の確認。内服薬は、利用者個々の服用一覧表と薬の効能表を作成した。
- ② 医療機関受診時には、看護師が介護情報提供書を作成し、83件の情報提供を行うことでスムーズな受診に繋げることが出来た。
- ③ 介護情報提供書を作成することにより、本人・ご家族が伝えきれない情報を提供することができた。

5 委員会活動

(1) 食事委員会

- ① トマトやキュウリ、茄子やピーマン等を利用者と一緒に苗の植え付けから収穫まで行った。収穫した野菜はメニューに取り入れた。
- ② 厨房の整理整頓、食材の在庫管理、調理器具の衛生管理を徹底して安全で美味しい食事を提供した。
- ③ 嗜好調査のアンケートは実施できなかった。
- ④ 選択メニューは実施しなかった。

(2) 介護委員会

- ① 各種発見、ひやりハット、事故報告は以下のとおり

【各種発見】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
転倒	2	3	1			1	4	1			3		15
転落							1	1		1			3
あざ				1					1	1			3
皮めくれ				1									1
怪我							1						1
その他								1					1
合計	2	3	1	2	0	1	6	3	1	2	3	0	24

【ひやりハット】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
転倒							1						1
怪我							1				1		2
誤嚥・誤飲			2										2
紛失									1				1
医療		2	1						1				4
その他									2	2	1		5
合計	0	2	3	0	0	0	2	0	4	2	2	0	15

【気づき】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
	0	1	2	3	0	4	5	4	4	8	2	0	33

【事故報告書】

	事故発生日	原因	事故内容	性別	受診先	入院 有無
1	令和4年4月2日	不明	右膝上部骨折	女	翠鳳第一病院	無
2	令和4年5月10日	転倒	右大腿骨転子部骨折	女	翠鳳第一病院	無

- ② 利用者のADLに適応した施設環境を提供した。身体機能を低下させることなく自立した生活を送れるよう問題があれば都度対応した。

(3) レクリエーション委員会

- ① 絵馬の工作を作成した。
- ② 個々の能力に合わせた工作活動や脳トレを実施した。
- ③ 誕生日会や年間行事、日常生活など通い利用者には、画像をプリントアウトしてご家族に見てもらった。宿泊者の家族には、SNSを利用して画像や動画を送って活動内容を伝えた。

6 年間行事

月度	行事内容
4月	お花見ドライブ(17名)
5月	外出会 大浜方面(17名)
6月	外出会 慶野松原方面(13名)
7月	七夕祭り(7/7・12名)
8月	夏祭り(中止)
9月	敬老会(9/14・9名)
10月	運動会(10/19・11名)
11月	市文化展参加(13名)
	外出会 (12名)
12月	クリスマス会(12/23・11名)
	お餅づくり(12/28・10名)
1月	新年会(1/12・13名)
2月	豆まき会(2/3・15名)
3月	ひな祭り会(3/2・13名)
	広田梅林見学(13名)

みどりの家 行事紹介



4月
お花見



5月
外気浴



6月
外出会



7月
七夕会



9月
秋祭り



10月
運動会



11月
緑文化展見学



12月
クリスマス会



12月
お餅作り



1月
お正月



2月
豆まき会



3月
広田梅林見学

VI 居宅介護支援事業

1 施設の概要

- [1] 名 称 社会福祉法人 緑風会 緑風館
- [2] 所在地 兵庫県南あわじ市広田中筋1025-19
- [3] 開 設 平成11年10月1日
- [4] 設置運営 社会福祉法人 緑風会
- [5] 併設施設 特別養護老人ホーム 緑風館

2 介護支援専門員

(1)ケアプラン作成件数

区 分		令和 3年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	平均	
予防 プラン	要支 援1	洲本	66	4	4	4	4	4	3	3	5	5	5	5	51	4.3	
		南あわじ	395	24	24	24	25	25	23	24	23	24	23	25	25	289	24.1
	要支 援2	洲本	54	3	3	1	2	2	2	2	2	2	2	1	2	24	2.0
		南あわじ	343	33	33	32	33	33	34	34	33	34	34	36	35	404	33.7
	合 計		858	64	64	61	64	64	62	63	63	65	64	67	67	768	64.0
介護 プラン	要介護1	433	35	37	39	38	37	37	39	39	36	34	35	35	441	36.8	
	要介護2	306	28	26	25	25	24	25	25	24	23	22	22	23	292	24.3	
	要介護3	197	15	17	20	19	20	21	22	23	23	21	19	19	239	19.9	
	要介護4	74	10	10	10	9	8	8	8	8	6	6	9	9	101	8.4	
	要介護5	32	2	2	2	2	2	3	2	2	1	1	2	3	24	2.0	
	合 計	1042	90	92	96	93	91	94	96	96	96	89	84	87	89	1097	91.4

① 要介護者は月平均91.4件となり目標の80件以上となった。

要支援者は月平均64件となり目標の70件には届かなかった。

新規の依頼は、介護が28件(月平均2.3件)、支援が17件(月平均1.4件)であった。

新規依頼のうち、直接依頼が16件と昨年より10件少なかった。

地域包括支援センターとの連携により、8件の依頼があった。

加算状況については、以下の通りである。

区 分		令和 3年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
予防 プラン	初回	23	1	1	0	1	1	1	1	3	3	2	3	2	19
	小規模連携	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
介護 プラン	初回	50	5	6	5	2	0	6	3	5	1	1	3	4	41
	医療連携Ⅰ	24	1	4	3	3	1	1	1	6	5	0	0	2	27
	医療連携Ⅱ	0	1	0	0	0	1	0	1	0	2	1	0	1	7
	小規模連携	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	特定事業所Ⅲ	1043	90	92	96	93	91	94	96	96	96	89	84	87	89
合 計		1140	98	103	104	99	94	102	102	110	100	88	93	98	1191

(2)住み慣れた地域でその人らしく安心して暮らせるための支援

- ① 訪問時は事前連絡を行い、利用者・家族の状況把握を行った上で、電話・訪問対応を行った。訪問時には、手指消毒や体調管理を行い、対応した。
- ② 独居高齢者や高齢世帯の方の状況は、必要に応じて民生委員と情報共有を行ったり、在宅介護支援センターを通じて情報共有を行い、9件の連携を図った。
- ③ ケアプランを作成し、かかりつけ医に142件提示。連携が図りやすくなった。
- ④ 提供票やケアプランを事業所へ持参した際に、情報収集を行った。また、事業所より利用状況連絡票を通じて状況を確認した。
- ⑤ 各保険者や地域と情報収集を行い、個々の利用者に応じた保険外のサービスを活用した。内容として、市や民間の配食サービス(6件)、オムツの支給(17件)、移送サービス(1件)、地域サポート施設(LSA)(4件)、在宅介護支援センター見守り(3件)の支援を行った。

(3)緊急時の体勢整備

- ① 地域や事業所での情報収集を一早く行い、利用者・家族・サービス事業所との調整を行った。サービスを休業した利用者には、代替サービスの調整や電話連絡等で状況確認を行った。
- ② キーパーソンの生活スタイルを確認し、電話連絡以外にもSNSなどの連絡方法を利用し連携を図った。
- ③ 利用者個々の見直しができなかった。

(4)介護保険制度の周知と理解、事業所の広報

- ① 新規の利用者を担当した際に、FAX又は訪問にて挨拶を行った。
- ② 施設内研修での周知はできなかった。
- ③ コロナ感染症の状況により、サロンの開催も少なく訪問は行わなかった。

今年度も、継続して地域にある店舗のスペースを借り、無料相談会は毎月開催した。

(5)利用者、家族に満足していただける事業所作り

- ① 週1回の連絡会にて担当外の利用者の状況を共有することで、担当のケアマネジャーが不在でも迅速に相談支援を行うことができた。

困難事例に関しては、事業所内でも事例検討会を実施したり、カンファレンスへの同行を行った。利用者等の状況に応じて、担当を2人体制にし支援した。(2件)

- ② 利用者満足調査は準備もできず、実施できなかった。
- ③ 利用者・家族には契約時に周知し、安心できる体制を継続して行った。

(6)介護支援専門員としての質の向上

- ① 年間計画に沿って、研修を実施。担当者を付けることでスキルアップにもつながった。
- ② 自己評価は実施できなかった。
- ③ 月1回の南あわじ市、洲本市の介護支援専門員連絡会へ参加。オンライン研修が主となり、Web研修に参加した。(南あわじ市12回、洲本市4回)
南あわじ市の特定事業所共同研修会は、コロナ禍の為、書面開催で行った。

Ⅶ 在宅介護支援センター

1 施設の概要

[1] 名 称	緑風在宅介護支援センター
[2] 所在地	兵庫県南あわじ市広田中筋1025-19
[3] 開設日	平成6年6月27日
[4] 設置運営	社会福祉法人 緑風会
[5] 併設施設	特別養護老人ホーム 緑風館

2 活動実績

区分	3年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	
活動日数	開所日数	245	20	21	20	22	22	14	20	20	21	20	19	21	240 日
	訪問回数	160	15	12	10	10	12	7	9	9	7	13	37	9	150 回
	会議	26	2	3	3	4	1	1	3	4	3	0	1	3	28 件
	家族会	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	1	0	3 件
	出前指導	10	1	1	2	1	0	0	0	1	1	0	1	0	8 件
	新規出前指導	3	4	1	1	3	0	1	2	3	1	0	0	2	18 件

※ 訪問回数は、相談依頼への対応と、市の配食サービス、紙オムツ補助支給サービスのアセスメント調査である。

(コロナ禍のため、訪問となっているが電話対応した件数も含まれる)

※ 出前指導は2回目以降の認知症サポーター養成講座・サロン等の集まり、新規出前指導は初回の認知症サポーター養成講座等である。

3 会議の内訳

(件)

区分	3年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
地域包括在介連絡会	9	1	1	1	1	0	0	1	1	1	0	0	1	8
その他の会議	18	1	2	2	3	1	1	2	3	2	0	1	2	20
合計	27	2	3	3	4	1	1	3	4	3	0	1	3	28

※ その他の会議は 緑地区地域ケア会議や民生児童委員会などである。

4 いきいき百歳体操・認知症サポーター養成講座・高齢者安心相談窓口の内訳

(件)

区分	3年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
いきいき百歳体操	2	0	1	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0	3
安心相談窓口	10	4	1	3	1	0	0	2	2	2	0	0	2	17
認知症サポーター養成講座	2	0	0	0	1	0	1	0	1	0	0	0	0	3
合計	14	4	2	3	3	0	1	2	4	2	0	0	2	23

5 相談内容別実績

(件)

区 分	3年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合 計
在宅生活について	5	0	0	1	1	1	0	1	0	0	0	1	0	5
情報提供	7	0	3	1	1	3	0	1	0	1	0	0	0	10
その他	2	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1
相談実人数	14	0	3	2	2	4	0	3	0	1	0	1	0	16

6 調査訪問内容別実績

(件)

区 分	3年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合 計
オムツ調査	61	4	3	2	3	4	1	4	3	3	8	22	4	61
配食調査	23	2	1	0	0	0	0	0	1	0	1	11	1	17
継続見守り	81	9	8	8	7	8	6	5	5	4	4	4	4	72
合 計	165	15	12	10	10	12	7	9	9	7	0	0	0	150

令和4年度 事業計画に対する取り組みと結果

(1) 相談窓口体制の整備

- ① コロナ禍で集まる場が少なくなっているが、4月と6月は倭文地区で開催したサロンへ参加する。
高齢の方に対し、一緒に作品を作ったり、フレイル予防の話をさせてもらった。
- ② 地域ケア会議や民生児童委員会、サロン、いきいき百歳体操、集いと学びの場、担い手研修、
認知症サポーター養成講座時に在宅介護支援センターの役割について説明を行った。
- ③ 交流センターなどを活用し高齢者安心相談窓口を開催、市内17会場へ出向いた。
ウエルシア広田店で介護相談会を毎月開催、3回参加し対応させてもらう。

(2) 認知症になっても安心して生活できる地域作り

- ① 認知症サポーター養成講座に3回（浦壁、委文、市地区）参加した。
- ② 認知症サポーター養成講座開催時には、認知症カフェ、家族会のパンフレットを配布し、
認知症の方やその家族への支援体制があることを周知した。1月、3市の認知症家族の集い
へ参加をし情報や意見交換をした。

(3) 地域包括支援センターとの連携（委託事業の推進）

- ① 地域包括支援センターからの依頼があれば、配食サービスのアセスメント調査
を行い、在宅高齢者の生活状況を確認し連携を図った。
- ② 地域包括支援センターからの依頼があれば、紙おむつ支給のアセスメント調査
を行い、在宅高齢者の生活状況を確認し連携を図った。
- ③ 見守り件数は新規2件、転居1件、中止5件に至る。中止の方のうち、3名は介護サービス
を利用するようになり支援終了となる。

